専用水道を管理される皆様へ

**平成３０年７月**

広島県健康福祉局食品生活衛生課

は　じ　め　に

皆様方におかれましては，日頃から水道水の供給を通じ，本県の公衆衛生の向上に御尽力をいただき，厚くお礼を申し上げます。

本県では，平成１６年１月に「専用水道の手引き」を作成し，平成２５年３月に法改正の内容などを追記した冊子「専用水道を管理される皆様へ」を作成しました。この度，その後の水質基準項目や基準値などの改正に伴い「専用水道を管理される皆様へ」を改訂しました。

　水道は，私たちの生活に不可欠な施設ですが，施設や水質の異常を放置すると，断水や健康被害の発生といった重大事故につながります。

この冊子を手元に置かれ，諸手続や日常業務の参考としていただければ幸いです。

平成３０年７月

広島県健康福祉局食品生活衛生課長　　松岡　俊彦

## 目　次

（番号をクリックすると各項目の解説ページに移動します）

●基礎編

[１](#_１_専用水道とは何か_)　専用水道とは何か

[２](#_２_専用水道と水道局の水道との違い)　専用水道と水道局の水道

[３](#_３_専用水道の「設置者」_)　専用水道の「設置者」

[４](#_４_設置者の義務_)　設置者の責務

[５](#_５_水道技術管理者の任務_)　水道技術管理者の任務

●維持管理編

[10](#_10_施設管理における留意点_)　給水の衛生対策

[11](#_11_水質検査)　水質検査

[12](#_11_水質検査を行う際の留意点_)　水質検査を行う際の留意点

[13](#_13_水質に異常を生じた場合_)　水質に異常を生じたとき

[14](#_14_施設に異常を生じた場合_)　施設に異常を生じたとき

●行政手続き編

[19](#_19_布設工事と確認_)　確認

[20](#_20_布設工事後の給水再開_)　工事後の給水再開

[21](#_21_設置者の名称・住所の変更_)　設置者の名称・住所の変更

●用語解説編

●様式編

[６](#_６_水道技術管理者の資格_)　水道技術管理者の資格

[７](#_７_立入検査への対応_)　立入検査への対応

[８](#_８_各種調査への対応_)　各種調査への対応

[９](#_９_法令違反時の行政処分・罰則_→)　法令違反時の行政処分・罰則

[15](#_15_職員の健康診断_)　職員の健康診断

[16](#_16_改善指導を受けた際の対応)　改善指導を受けたとき

[17](#_17_危機管理マニュアル_)　危機管理マニュアル

[18](#_18_文書・資料の管理_)　文書・資料等の管理

[22](#_22_業務の委託_)　業務の委託

[23](#_23_専用水道の廃止_)　専用水道の休廃止

|  |  |
| --- | --- |
| １　専用水道とは何か | **→ 目次に戻る** |
| ●専用水道とは，[自家用水道](#自家用水道)のうち次のいずれかの要件を満たす水道施設として[水道法](#水道法)で定義されています。  ① [給水人口](#給水人口)が100人を超える  ② [計画給水量](#計画給水量)のうち，[生活の用に供するもの](#計画給水量)が日量20㎥を超える  ●ただし，上記の要件を満たしていても，次の３要件すべてに当てはまるものは専用水道の範囲から除かれます。（下のフローチャートで判定できます。）  ア　水道局から供給を受ける水のみを水源としている。  イ　地表又は地中にある口径25mm以上の導管の全長が1,500ｍ以下  ウ　地表又は地中にある[貯水槽の有効容量](#有効容量)の合計が100㎥以下    ●給水人口や給水量の縮小により施設が専用水道の要件を満たさなくなる場合は，県市町の[担当課](#担当課)に相談してください。 | |

|  |  |
| --- | --- |
| ２　専用水道と水道局の水道 | **→ 目次に戻る** |
| ●水道局の水道は利用者を限定しませんが，専用水道は特定の人（※）が「専ら」使用する目的で作られた水道です。  ※　施設に居住する人のほか，施設の利用者，[設置者](#_３_専用水道の「設置者」)が特に認めた人など  ●このほか，違いをまとめると下表のようになります。   |  |  |  | | --- | --- | --- | |  | 水道事業 | 専用水道 | | 設置目的  給水対象 | ・自治体等が，事業区域内に居住する人の要望に応じて給水を行うもの | ・事業者等が，自分とその関係者の使用を前提に設置するもので，一般の需要に応じて給水する水道事業の概念に当てはまらないもの | | 責任主体 | ・事業を経営する自治体 | ・施設の[設置者](#_３_専用水道の「設置者」) | | 水道料金 | ・自治体の条例に定める料金を徴収し，事業収入とする | ・料金は，徴収してもしなくても良い  ・水道局から給水を受ける場合は，水道局に受水分の料金を支払う | | 給水義務 | ・平常時の給水義務を負う | ・給水義務はない | | 施設の  維持管理  義務 | ・[施設基準](#施設基準)及び維持管理に係る条文が全て適用される  ・管理主体は水道事業管理者  ・[水道技術管理者](#_６_水道技術管理者の任務)を置く  ・技術上の業務委託が可能 | ・[施設基準](#施設基準)及び維持管理に係る条文のほとんどが適用される  ・管理主体は施設の[設置者](#_３_専用水道の「設置者」)  ・[水道技術管理者](#_５_水道技術管理者の任務)を置く  ・技術上の業務の委託が可能 | | 水質検査  の義務 | ・[水質基準](#水質基準)が適用される  （定期及び臨時の[水質検査](#_11_水質検査)）  ・[水質検査計画](#_12_水質検査を行う際の留意点)の策定，公表  ・需要者の求めに応じた検査 | ・水質基準が適用される  （定期及び臨時の水質検査）  ・水質検査計画の策定 | | 設置及び  変更の  手続き | ・事業認可申請  ・廃止許可申請 | ・工事着手前の[確認申請](#_19_確認)（新設，変更いずれの際も必要）  ※廃止の際の許可申請は不要 | | 監督機関 | ・国又は県 | ・県又は市  ・県の事務を移譲されている町の場合は町 |   ●施設や水質の維持管理に関しては，水道局とほぼ同等の水準が要求され，[水道技術管理者](#_６_水道技術管理者の任務)を任命して管理に従事させなければなりません。 | |

|  |  |
| --- | --- |
| ３　専用水道の「設置者」 | **→ 目次に戻る** |
| ●[水道法](#水道法)では，専用水道の管理責任は「設置者」が負うとされています。また，[水道法](#水道法)には設置者の義務違反に対する罰則についても併せて規定されています。これは，専用水道は[給水人口](#給水人口)が100人を超える，又は，[計画給水量](#計画給水量)のうち，[生活の用に供するもの](#計画給水量)が日量20㎥を超えるため，汚染事故等が公衆衛生上大きな問題につながるためです。  ●水道法において設置者の定義はありませんが，本県では施設の所有権，運転管理及び[業務委託](#_21_業務の委託_)の状況を勘案して，①②のいずれが設置者かを判断します。  ①(設置・購入・譲渡などにより）施設を所有している者  ② 施設の維持管理に関し，全般的な権限を有している者  例１）　Ａ不動産が設置，Ｂ社が購入して使用，すべての管理業務をＣに委託  　　⇒　施設の所有者はＢですが，施設の維持管理に係る全ての権限がＣに委ねられていれば，Ｃを設置者と見なします。  　　　※　水道施設の運転管理業務のみが委ねられている場合は，施設の所有（設置）者ＢからＣへの業務委託となります。  例２）　Ｄ建設が設置，Ｅ組合が管理しつつ使用  　　⇒　施設がＥに譲渡されていれば，Ｅが設置者となります。Ｄの所有であれば，例１のように管理上の契約がどのような内容かによります。  例３）　Ｆ市が設立し，指定管理者Ｇに管理を委託  　　⇒　指定管理者制度に基づく水道施設の管理は，水道法上の[業務委託](#_21_業務の委託_)と見なされるので，設置者はＦとなります。  ●設置者の判断について疑義がある場合は，県市町の[担当課](#担当課)（以下「担当課という。」）に相談してください。 | |

|  |  |
| --- | --- |
| ４　設置者の責務 | **→ 目次に戻る** |
| ●[水道法](#水道法)において設置者の義務とされているものは，次のとおりです。   |  |  |  | | --- | --- | --- | |  | 内　　容 | 備　　考 | | [水道技術管理者](#_６_水道技術管理者の任務)の任命 | [水道技術管理者](#_６_水道技術管理者の任務)を任命して水道法に定める技術上の業務を遂行させる。 | 水道技術管理者は施設の運転管理に係る最高責任者であるため，[有資格者](#_６_水道技術管理者の資格)を任命し業務遂行に必要な権限を与えること。 | | [業務委託の届出](#_21_業務の委託_) | 他者に（その責任も含めて）[業務委託](#_21_業務の委託_)する場合に，[担当課](#担当課)に届け出る。 | 責任が委託側に残る場合は，水道法でいう[業務委託](#_21_業務の委託_)に該当しない。 | | [設置者変更の届出](#_21_設置者の名称・住所の変更) | [設置者](#_３_専用水道の「設置者」)の住所及び氏名（法人や組合では，その名称，主たる事務所の住所及び代表者の氏名）が変更された場合に[担当課](#担当課)に届け出る。 | 施設が承継される場合には，承継者が届け出る。 | | [確認申請](#_19_布設工事と確認) | 施設を新設，既存施設の増築・改造する場合には，工事の着手前に必要書類を付記して[担当課](#担当課)に申請し，確認を受ける。 | 確認を受けなければ工事に着手できない。 | | [給水開始の届出](#_20_工事後の給水再開) | （工事完了後の）給水開始の予定日等を事前に[担当課](#担当課)に届け出る。 | 施設及び水質に係る検査書類，図面等を添付する。 | | [担当課](#担当課)への報告 | 施設の管理（改善）状況について[担当課](#担当課)から報告を求められた場合，期日までに回答する。 | [各種調査](#_８_各種調査への対応)における調査票についても同様。 |   ●また，法律上の義務ではありませんが，[施設を休廃止する場合](#_23_専用水道の休廃止)や[水道技術管理者](#_６_水道技術管理者の任務)が交替した場合には，[担当課](#担当課)に連絡してください。 | |

|  |  |
| --- | --- |
| ５　水道技術管理者の任務 | **→ 目次に戻る** |
| ●水道技術管理者は，[設置者](#_３_専用水道の「設置者」)の任を受けて，水道法上の技術上の業務（下表）に従事し，及びこれらの事務に従事する職員を監督しなければなりません。   |  |  | | --- | --- | | 技術上の業務 | 説　　明 | | [水道施設](#水道施設)の  [施設基準](#施設基準)適合検査 | [水道施設](#施設基準)に損壊がなく，本来の機能が維持されていることの恒常的な確認 | | [給水開始前の](#_20_工事後の給水再開_)  [水質検査及び施設検査](#_20_工事後の給水再開_) | 工事が適正に完了していること，給水前の水質が[水質基準](#水質基準)に適合していることの確認 | | [水質検査](#_11_水質検査) | 定期検査の実施と水質が正常であることの確認，[水質異常時](#_13_水質に異常を生じたとき)における臨時検査の実施 | | [職員の健康診断](#_15_職員の健康診断) | 施設管理に従事する職員が伝染病に罹患していないことの確認 | | [衛生上の措置](#_10_給水の衛生対策) | 施設の清掃及び施設内の清潔保持，給水の塩素消毒 | | [給水の緊急停止](#_13_水質検査を行う際の留意点) | [水質異常](#_13_水質検査を行う際の留意点)を把握した際の給水停止措置と関係者への周知 |   ●[水道技術管理者](#_６_水道技術管理者の任務)は，上記の業務を他者に行わせる場合であっても，業務の実施状況を常に把握できるようにしてください。  ●上記の業務をすべて外部者に[委託](#_21_業務の委託_)した場合は，委託者側は[水道技術管理者](#_６_水道技術管理者の任務)を置かなくても良くなります。ただし，業務の一部を委託する場合は，委託者，受託者双方が[水道技術管理者](#_６_水道技術管理者の任務)を任命することになります。  ●[立入検査](#_８_立入検査への対応)の際，[水道技術管理者](#_６_水道技術管理者の任務)は，水道監視員に同伴し，施設の管理状況を説明してください。 | |

|  |  |
| --- | --- |
| ６　水道技術管理者の資格 | **→ 目次に戻る** |
| ●[水道技術管理者](#_６_水道技術管理者の任務)は，施設の管理全般に係る知識が求められることから，下表に該当する者にのみ資格が与えられます。役職は問われませんが，任命する際は，業務遂行に必要な権限を与えてください。    　　なお，平成23年8月，水道法の一部が改正され，平成24年4月1日以降は自治体が設置する専用水道の水道技術管理者の資格要件は，政令で定める要件を参酌して，自治体が条例で定めることとなっています。  ●「水道に関する技術上の業務」は，水道技術管理者の下で行う業務であれば，その内容は問いません。（採水，検査，施工，修繕，点検，[給水装置](#給水装置)工事など）  ●管理ノウハウの継承，有資格者保持のため，水道技術管理者以外の者もある程度従事させる形が望ましいと言えます。 | |

|  |  |
| --- | --- |
| ７　立入検査への対応 | **→ 目次に戻る** |
| ●立入検査は，各施設における水道法の遵守状況を確認する目的で行われます。  　検査の頻度や方法は，自治体によって異なります。  ●立入検査は，次の流れで行われます。  　概ね半日かかると想定し，立会者（水道技術管理者及び関係職員）のスケジュールを確保してください。  立入検査の予告  及び日程の調整  書類検査を行うための部屋も併せて確保してください。  　水道技術管理者（専用水道）  　水道監視員（県・市・町）  検査当日までに，指定の資料をはじめ，水道施設の維持管理に係る帳簿類を準備してください。  立入検査の通知  検査資料の指定  （検査当日）  検査の際は，水道監視員に同伴し，指摘事項に応答してください  書類検査，施設検査  指摘を正しく認識し，早期の改善及び報告に努めてください。  ※監視指導票は後日通知される場合もあります。  検査結果の講評及び  監視指導票の交付  （後日：改善後）  改善報告書の提出  ●書類検査では以下の書類の内容及び整理状況をチェックし，要改善事項を記述した監視指導票を交付します。  当日確認できなかった書類等については，後日提出を求める場合があります。  　・[水質検査](#_11_水質検査)の成績書（過去５年分）  　・[水質検査の契約](#_11_水質検査を行う際の留意点_)に関する書類（当該年度分）  　・[水質検査計画](#_11_水質検査を行う際の留意点_)（当該年度分）  　・関係職員の[健康診断書](#_15_水質に異常を生じた場合の対応)（過去１年分）  　・[給水開始前の水質検査書及び施設検査書](#_20_工事後の給水再開_)（過去５年分，該当があれば）  　・[緊急時の対応マニュアル](#_17_危機管理マニュアル)  ●施設検査では，施設の運転管理の状況を見て回るとともに，運転日誌の有無や記入状況，給水栓水における[残留塩素](#_11_施設管理における留意点)についてもチェックします。 | |

|  |  |
| --- | --- |
| ８　各種調査への対応 | **→ 目次に戻る** |
| ●水道施設の状況については，毎年国が調査を行っており，県市町の[担当課](#担当課)から皆様に調査票を送付し，回答いただいています。  ●現在，定期的に実施されている調査は，次の２つです。（　）…実施時期  　①水道統計調査（８～９月）  　　⇒　水道施設の箇所数，[給水人口](#給水人口)，[給水量](#計画給水量)，[水源](#水源)・[浄水方法の種別](#浄水方法)などを把握するための調査。  ②水道水質関連調査（７～８月）  　　⇒　水質事故・施設事故の発生状況，[クリプトスポリジウム](#クリプトスポリジウム)対策などを把握するための調査  【調査の流れ】　※水道統計調査の場合  専用水道の設置者  市又は町  県 食品生活衛生課  国（厚生労働省）  依頼  調査票  を送付  依頼  集約  回答  状況を記入  して回答  集約  回答  調査票  　送付  西部保健所  県が管轄する  専用水道  回答  ●このほか，自然災害（地震，豪雨など）による被害が広域に及ぶ場合，[水道施設](#水道施設)の被害の有無や程度を聴取することがありますので，回答してください。  ●いずれの調査にも共通する注意点は，次のとおりです。  ・期限内に回答してください。  ・[担当課](#担当課)が指定する時点（○年○月○日）での内容を回答してください。  ・回答前に，内容に誤りがないか十分確認してください。  ・調査票への記入方法が分からない場合は，[担当課](#担当課)に必ず確認してください。 | |

|  |  |
| --- | --- |
| ９　法令違反時の行政処分 | **→ 目次に戻る** |
| ●施設の適正性を確保するため，水道法には次の行政処分が定められています。   |  |  |  | | --- | --- | --- | | 名　称 | 処分の内容 | 備　考 | | ① 施設の改善指示 | 立入検査で[施設基準](#施設基準)の不適合が見つかり，人の健康を守るために[緊急の措置](#_14_施設に異常を生じたとき)が必要な場合に，期間を定めて改善を指示する。 | 改善までの間の措置も含まれる。 | | ② [水道技術管理者](#_６_水道技術管理者の任務)の  変更勧告 | [水道技術管理者](#_６_水道技術管理者の任務)が改善指導に従わない場合に警告を発し，警告にも関わらず職務を怠る場合は交代を勧告する。 |  | | ③ 給水停止命令 | 勧告にも関わらず[水道技術管理者](#_６_水道技術管理者の任務)の変更がなされず，給水継続により利用者の利益が阻害される場合に，給水を止めさせる。 | 命令に違反した場合，[罰則](#罰則)の対象となる。 |   ●行政処分は，皆様方の信用失墜はもとより，給水の安全と安定を損なうことにつながるので，[担当課](#担当課)に指導を受けた段階で速やかに改善措置を講じてください。  　なお，②又は③の処分を受けた場合には，次の権利が認められています。  ●[水道技術管理者](#_６_水道技術管理者の任務)を変更するよう警告を受けた場合，事実関係の相違や，職務を履行しない理由がある時は，[担当課](#担当課)の指定する期日までに弁明書を提出することができます。  　また，変更勧告を受けた場合には，同様に理由書を提出することができます。  ●処分の内容に不服がある場合，処分があったことを知った日の翌日から３月（※）以内に自治体の首長に対して審査請求を，また，同じく６ヶ月以内に広島地方裁判所に対し，首長を被告とする処分取り消しの訴えを提起することができます。  　　※平成26年に改正された行政不服審査法が，平成28年4月1日から施行されたことに伴い，「60日」から「３月」に変更されました。 | |

|  |  |
| --- | --- |
| 10　給水の衛生対策 | **→ 目次に戻る** |
| ●給水の衛生確保のため，水道技術管理者が実施すべきことは次の４つです。  ① [水質検査](#_11_水質検査)，　② [職員の健康診断](#_15_水質に異常を生じた場合の対応)，　③ 施設の清潔保持  　④ 塩素による給水の消毒  ●このうち③については，人畜による汚染を防止するため，施設を施錠して柵を設けるほか，「立入禁止」の表札を掲げるなどして注意を喚起してください。  また，施設の定期的な清掃に努めるとともに，し尿，ごみ，その他不要なものを施設の近辺に放置しないようにし，薬剤・油類などは汚染の原因となるので水に混入しない形で保管してください。  ●④については，水中の病原生物を確実に殺菌するためにも，給水栓における[遊離残留塩素（又は結合残留塩素）](#残留塩素)の濃度が下表の値以上となるよう消毒してください。   |  |  |  | | --- | --- | --- | |  | 遊離残留塩素 | 結合残留塩素 | | 通常の場合 | 0.1 mg/L 以上 | 0.4 mg/L 以上 | | 水源付近又は上流域で消化器系の伝染病が発生している場合 | 0.2 mg/L 以上 | 1.5 mg/L 以上 | | 洪水・渇水明け，浄水操作等の異常，近隣工事に伴う水の汚染により，浄水中の生物など(※)の急増が疑われるとき | | 断水後に給水を再開させるとき |   　　　　※ 一般細菌，[大腸菌](#大腸菌)，硝酸態及び亜硝酸態窒素，塩素イオン，ＴＯＣ（全有機炭素）  ●消毒に用いる塩素剤は，「水道用」の高純度次亜塩素酸ナトリウム液を使用してください。清掃用など他の目的で販売されているものは，塩素酸などの不純物により水が汚染されるので，使わないでください。  ●次亜塩素酸ナトリウム液は，高温，多湿，光が原因で時間の経過とともに有効塩素濃度が減少し不純物が増加するため，温度管理のできる冷暗所に保管し，購入後なるべく一ヶ月以内に使い切るようにしてください。  また，有毒ガスを発生するおそれがあるので換気設備のある場所に保管し，酸類の近くに置かないでください。 | |

|  |  |
| --- | --- |
| 11　水質検査 | **→ 目次に戻る** |
| ●水道により供給される水は，飲用や生活用の様々な用途で使用されることから，下表の要件を満たさなければならないとされています。  ・病原生物に汚染され，又は汚染を疑わせる生物や物質を含まないこと。  ・シアン，水銀その他の有毒物質を含まないこと。  ・銅，鉄，フッ素，フェノールその他の物質を，許容量を越えて含まないこと。  ・異常な酸性又はアルカリ性を示さないこと。  ・（消毒によるもの以外の）異常な臭味がないこと。  ・外観はほとんど無色透明であること。  ●このため，水道技術管理者は，供給する水について次の検査を実施し，検査結果をその実施日から５年間保管しなければなりません。   |  |  |  | | --- | --- | --- | |  | 検査項目 | 摘　　要 | | ① 毎日検査 | 色，濁り及び  残留塩素の有無 | 色及び濁りについては目視で，[残留塩素](#残留塩素)については計器又は検査試薬を使用して存在を確認する。  水道施設の稼動日は，休祝日も欠かさず行う。 | | ② 定期検査 | [水質基準51項目](#水質基準) | 自治体の検査所又は登録検査機関に委託して行う。  水質検査計画に定める内容で実施する。  （クリプト等及び指標菌は、国の指針に従う。） | | [クリプトスポリジウム等](#クリプトスポリジウム)及びその[指標菌](#指標菌) | | ③ 臨時検査 | 上記②のうちの  必要な項目 | 水質に異常があった場合に，自治体の検査所又は登録検査機関に委託して行う。  実施方法や委託先も水質検査計画に定めておく。 |   ●特に①の毎日検査は重要で，異常な色や濁り，[残留塩素](#残留塩素)の不検出（0.1mg/L未満）が確認されれば，直ちに給水を停止して必要な対策を講じてください。  　また，色及び濁りの検査には清浄された透明な容器を使用し，[残留塩素](#残留塩素)の測定器は定期的に点検・較正してください。  ●②の定期検査で異常（水質基準値の超過や[クリプトスポリジウム等](#クリプトスポリジウム)の検出）が認められれば，[検査機関](#登録検査機関)から緊急に連絡があるので，[担当課](#担当課)に報告・相談した上でその指導に従ってください。  なお，検査成績書は通常，採水日から２～４週間後に届きます。 | |

|  |  |
| --- | --- |
| 12　水質検査を行う際の留意点 | **→ 目次に戻る** |
| ●水質検査の実施前（当該年度の初めまで）に，次の事項を記した水質検査計画を策定しなければなりません。  ・水質管理において留意すべき事項  ・定期検査を実施する項目，採水場所，検査回数及びその理由  ・検査を省略する項目について，その理由  ・臨時の水質検査に係る事項（委託先，実施する場合など）  ・水質検査の委託の内容（委託先及び期間など）  ・水質検査の実施に際し配慮すべき事項  ●水質検査は，自治体の検査所か，[国の登録を受けた機関](#登録検査機関)に委託して行うこととされています。委託契約は書面で行い，次の事項を契約書に明記するとともに，契約終了日から５年間保管しなければなりません。  ・検査を委託する項目及び，これらの項目に係る検査の実施時期及び回数  ・委託に係る料金  ・試料の採取及び運搬方法（受託者が行う場合）  ・水質検査結果の根拠となる資料（受託者が委託者に渡すもの）  ・臨時の水質検査を含めるか否か（含めない場合は，他機関との契約が必要）  ※ 水質検査結果の根拠資料は，検査成績書に記載の項目を実際に検査した際の日時，検査者名，検出信号，検量線などが記載された出力データを言います。  ●委託先を選定する際は，次のことに気をつけてください。  ・所在地や運送手段を考慮し，試料を速やかに搬入できる機関とする。  ・入札機関に対し，検査の信頼性確保に係る取組状況と委託料金の積算根拠について十分な説明を求める。  ・料金が突出して安い検査機関がある場合，その検査が公定法に則って実施されているか確認し，疑義のある場合には契約しない。 | |

|  |  |
| --- | --- |
| 13　水質に異常を生じたとき | **→ 目次に戻る** |
| ●水質に異常を生じた場合（下表）は，直ちに[担当課](#担当課)に報告するとともに，所要の措置を講じなければなりません。（水源水質に異常が生じ，浄水処理後も水質基準値を超過するおそれがある場合も同様です。）  また，いずれの場合にも，[臨時の水質検査](#_11_水質検査)を行って水質の状況を確認しつつ，[担当課](#担当課)からの指導も踏まえて対応してください。   |  |  |  | | --- | --- | --- | | 分類 | 具体の状況 | 対応 | | [水質基準項目](#水質基準)のNo.1～31について基準超過が継続すると見込まれるとき | 浄水場以降の水が病原生物や有害物質で汚染されている（又はその疑いがある）とき | **【緊急】**  取水及び給水の停止  関係者に状況を周知 | | 塩素注入機の故障又は薬剤の欠如により消毒ができないとき | | 水道管以外の管に誤って接続されていることが判明したとき | | 水源の水に異常があり，[水質基準項目](#水質基準)のNo.1～31について基準超過が見込まれるとき | 不明の原因により色及び濁りに著しい変化を生じたとき | **【緊急】**  取水の停止  関係者に状況を周知 | | 臭気及び味に著しい変化が生じたとき | | 魚が死んで多数浮上したとき | | 塩素消毒のみで給水する水道において，水源にごみや汚泥等の汚物の浮遊を発見したとき | | [水質基準項目](#水質基準)のNo.32～51について基準超過が継続すると見込まれるとき | 水質基準の超過により，生活利用上又は施設管理上の障害が生じるおそれのあるとき | 原因究明に着手  低減化対策の実施 | | その他 | 水源からクリプトスポリジウム等が検出されたとき | 検査日前後の浄水濁度の確認 | | 浄水からクリプトスポリジウム等が検出されたとき | **【緊急】**  給水の停止  関係者に状況を周知 | | 水道施設の水中から不審物が発見されたとき |   ●水質異常の発生と並行して，給水を受ける人に嘔吐・下痢など食中毒の症状が見られる場合は，そのことも含めて報告してください。  ●公共用水域（ダム，河川など）から取水する専用水道にあっては，流域自治体から提供される事故情報に留意し，必要に応じて取水停止等の措置を講じてください。 | |

|  |  |
| --- | --- |
| 14　施設に異常を生じたとき | **→ 目次に戻る** |
| ●水道施設に異常が生じれば，清浄な水を安定して供給することができなくなるおそれがあります。  　このため，平常時から各施設に異常（破損，劣化，故障，誤作動など）がないか，検査帳簿を作成するなどして確認してください。   |  |  |  | | --- | --- | --- | | 施設の区分 | | 異　常　の　例 | | 水源 | （表流水） | 取水門の破損，ごみの滞留 | | （伏流水） | 取水部分の目詰まり，埋設管の破損 | | （井戸） | 取水部分の目詰まり，揚水量の著しい低下 | | 浄水  施設 | （急速ろ過） | ろ過砂の劣化，凝集剤注入設備の故障・誤作動 | | （緩速ろ過） | ろ過池の劣化・洗浄不備，ろ過面の不均一，ろ過速度の過大，ろ過砂の劣化 | | （膜ろ過） | ろ過膜の劣化・洗浄不備 | | （紫外線照射） | 紫外線ランプの劣化・不点灯，照度計の整備不良 | | 消毒施設 | | 塩素注入ポンプ（及び予備ポンプ）の故障，塩素剤の枯渇，注入チューブの目詰まり | | 電気設備 | | 落雷などによる停電，発電機の故障，制御システムの誤作動 | | 導水・送水・配水管路 | | 漏水，劣化 | | 配水（貯水）槽 | | 外壁や各部分の劣化，水槽内での藻類の発生 | | 計器類（pH計，濁度計，[残留塩素](#残留塩素)計） | | 定期点検（較正）の未実施による計器の故障，誤作動，不正表示 |   ●特に，塩素注入機が停止（故障）した場合は，給水の水質が人の健康を害するおそれがあることから，施設が復旧するまでの間，給水を停止してください。  ●膜ろ過や紫外線照射などで使用する消耗品については，そのメンテナンス方法や耐用期限を製造元に確認の上，適切な時期に交換してください。  ●施設の異常により断水が発生した場合は，速やかに[担当課](#担当課)に連絡してください。  また，自然災害などで広域的な被害が発生した場合は，[担当課](#担当課)が施設の被害状況について聴取することがありますので，回答してください。 | |

|  |  |
| --- | --- |
| 15　職員の健康診断 | **→ 目次に戻る** |
| ●[水道技術管理者](#_６_水道技術管理者の任務)は，[水道施設](#水道施設)の管理業務に従事するすべての職員に定期及び臨時の健康診断（下表）を受けさせ，検査記録を保管しなければなりません。   |  |  |  | | --- | --- | --- | |  | 定期検診 | 臨時検診 | | 検査頻度 | ６ヶ月に１回以上  ただし，臨時検診を行った月においては実施しなくて良い。 | 職員から患者又は保菌者が出た場合  又は  伝染病(感染症)が発生し，職員が罹患するおそれがある場合 | | 検査項目 | ｢赤痢｣｢腸チフス｣｢パラチフス｣を基本に，必要に応じて｢コレラ｣｢赤痢アメーバ｣｢サルモネラ｣｢[腸管出血性大腸菌](#大腸菌)｣を加える。 | 罹患者が発生又はそのおそれのある菌について，罹患(保菌)者以外も含めて実施する。 | | 検査記録の  保管期間 | 検査日から１年 | 検査日から１年 |   ●検診は，基本的に便を対象として行い，必要に応じて尿や血液を対象とします。  　検診機関については，上記項目の検査を実施できる機関であれば構いません。  ●検査記録は，検査機関が発行する次の事項が記述された文書を言います。  検診日，検診者の氏名，性別，年齢，診断結果，診断医師の氏名，  検査成績（陽・陰），検査場所  ●この検診は，労働安全衛生法に定めるものとは別に行わなければなりませんが，他法令に基づいて上記に相当する検査を行った場合は，その結果で代用できます。 | |

|  |  |
| --- | --- |
| 16　改善指導を受けたとき | **→ 目次に戻る** |
| ●施設への[立入検査](#_７_立入検査への対応)で次のような水道法への違反が判明した場合，[担当課](#担当課)から監視指導票が交付されます。違反の程度が軽い場合は，口頭指導となることもあります。  ・専用水道設置者の義務の不履行  ・水道技術管理者の任務の不履行  ・施設や水質の異常  ●指導を受けた場合は速やかに改善に着手し，対応終了後は，[担当課](#担当課)の指示に従って図面，写真，報告書などにより改善状況を報告してください。  　また，早期の改善が難しい場合は，[担当課](#担当課)から当面の措置について指導を受け，これに従ってください。  ●度重なる指導にも関わらず状況が改善しない場合は，[行政処分](#_９_法令違反時の行政処分)の対象となります。  ●改善報告の際に提出した報告書（資料）の写し及び，[担当課](#担当課)から交付された監視指導票（指導文書）は，紛失しないよう管理してください。 | |

|  |  |
| --- | --- |
| 17　危機管理マニュアル | **→ 目次に戻る** |
| ●水道における典型的な危機が，断水と，給水の水質異常です。  　断水は，居住者の生活を困難なものとするほか，事業活動にも深刻な影響を与えますし，給水の水質異常は，食中毒や感染症に繋がるおそれがあります。  ●危機の要因は下表に示すとおり様々ですが，このうち，特に発生する可能性の高い「風水害等による施設の破損・停電」「水源水質の異常」については対応マニュアルを策定してください。   |  |  |  | | --- | --- | --- | | 分類 | 区　分 | 危機の原因となる事象 | | 施設の損壊 | 自然災害 | 地震，津波，風水害，落雷，豪雪，地すべり，崩落等の異常な自然現象 | | 火災 | 水道施設内外での火災 | | 事故 | 老朽化，第三者による加害など | | 施設の停止 |  | 停電や故障，ネットワーク途絶等による取水・送水等の停止 | | 取水停止 | 水源の汚染 | 油，汚水，薬品類，廃棄物等の水源への流出 | | 原水水質の異常 | 降雨等による高濁度の継続，フィッシュモニターの異常など | | 自然災害 | 渇水 | | 給水停止  又は  給水制限 | 浄水の汚染又は  そのおそれ | 水道用薬品等の誤注入・漏洩，浄水池以降の汚物混入，消毒用設備その他計測用機器の作動不良，管の誤接合など | | 浄水水質の異常 | 水質基準値の超過，クリプトスポリジウム等の検出など |   ●マニュアルには，危機の種類，緊急時の連絡網，[水道技術管理者](#_６_水道技術管理者の任務)の役割，応急給水方法，復旧対応，外部の連絡先（[担当課](#担当課)を含む）を具体的に記述し，作成後は施設の運転管理に係る全員で確認してください。  ●策定方法が分からなければ，[担当課](#担当課)に相談してください。  　　なお，厚生労働省水道課が水道局向けに作成した指針がありますので，参考にしてください。  [**→ 厚労省のサイト**](http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/kenkou/suido/kikikanri/chosa-0603.html)  ●マニュアルは，[水道施設](#水道施設)が被災しても閲覧可能な場所に施設図面とともに保管し，施設や管理体制，連絡先に変更があれば，その都度内容を修正してください。 | |

|  |  |
| --- | --- |
| 18　文書・資料等の管理 | **→ 目次に戻る** |
| ●[担当課](#担当課)からの通知文書や水道施設関係の資料（下表）は適正に管理し，[立入検査](#_８_立入検査への対応)の際に水道監視員の求めに応じて開示してください。   |  |  | | --- | --- | | 文書の種別 | 説　　明 | | [担当課](#担当課)から  の通知文書 | [水道法](#水道法)の変更や，維持管理の適正に係る事項が記載されています。  通知内容の理解に努めるとともに，不明な点があればすぐに確認してください。  また，文書の再発行はできないので無くさないでください。**【無期限保管】** | | 監視指導票 | [立入検査](#_８_立入検査への対応)において改善が必要な箇所とその方法を記載した書面です。  通知と同様に再発行できないので，無くさないでください。**【無期限保管】** | | 提出文書の  写し | [担当課](#担当課)に対して提出した申請書，届出書及び報告書（及び添付書類）です。  ２部作成し１部を提出，１部を手元に置くようにしてください。**【無期限保管】**  ・[確認申請書](#_19_布設工事と確認)  ・届出書（[設置者（代表者）又は事務所所在地の変更](#_21_設置者の名称・住所の変更_)，[給水開始](#_20_工事後の給水再開_)，[業務の委託](#_21_業務の委託_)）**【給水開始届に添付の施設検査書及び水質検査書は，検査日から５年保管】**  ・報告書（[改善指導](#_16_改善指導を受けたとき)に伴うもの，[調査](#_９_各種調査への対応)に対し回答したもの） | | [水質検査の](#_11_水質検査を行う際の留意点_)  [契約書](#_11_水質検査を行う際の留意点_) | 向こう１年間の[定期及び臨時の水質検査](#_11_水質検査)について，委託先（[登録検査機関](#登録検査機関)）と締結した書面です。**【契約終了日から５年間保管】** | | [水質検査](#_11_水質検査を行う際の留意点_)  [計画](#_11_水質検査を行う際の留意点_) | 向こう１年間の[定期及び臨時の水質検査](#_11_水質検査)の内容（検査頻度，採水場所，検査項目など）を記載した書面です。 | | 水質検査  成績書 | [登録検査機関](#登録検査機関)から送付される定期及び臨時の水質検査の結果を記した書面と，その根拠となる資料です。**【水質検査の実施日から５年間保管】** | | [職員の](#_15_水質に異常を生じた場合の対応)  [健康診断書](#_15_水質に異常を生じた場合の対応) | 水道施設の維持管理に関係する全職員について，水系感染症等の罹患の有無を記載した書面です。**【検査の実施日から１年間保管】** | | [危機管理マニュアル](#_17_危機管理マニュアル) | 地震，風水害，[水質異常](#_13_水質検査を行う際の留意点)などにより[水道施設](#水道施設)が被害を受けた場合の対応方法や，関係連絡先を記載した書面。 | | 施設の図面 | [水道施設](#水道施設)の位置，配置，構造，材質，機能に係る諸元を記載した書面です。  施設の設計又は竣工段階において，工事業者から入手してください。 | | 施設の運転管理マニュアル | 施設を運転管理する際の操作やメンテナンス方法について記載した書面です。  [水道技術管理者](#_６_水道技術管理者の任務)以外の方が運転管理業務を行う場合，当該施設の取り出しやすい位置に保管してください。 |   ●保管年数が決められた資料（**赤字**）は過去分も含め年数分を，行政文書（**青字**）は無期限に，その他は最新の資料の保管をお願いします。  ●施設の図面と[危機管理マニュアル](#_17_危機管理マニュアル)は，複写して分散保管するなど，万一の際に消失することがないようにしてください。  ●施設の図面は，緊急時の対応に不可欠ですので，必ず最新のものを作成・保持するようにしてください。 | |

|  |  |
| --- | --- |
| 19　確認 | **→ 目次に戻る** |
| ●専用水道における布設工事（次の①②に該当するもの）は，[担当課](#担当課)の「確認」を受けてからでないと工事に着手できません。  ① [給水量](#計画給水量)，[水源種別](#水源)，取水地点又は[浄水方法](#浄水方法)の変更のいずれかを伴う工事  ② 沈殿池，ろ過池，消毒設備又は配水池の新設，増設又は大規模改造を伴う工事   |  |  | | --- | --- | | 申請書  の記載 | 申請者の住所及び氏名  ※申請者が法人及び組合の場合は，主たる事務所の所在地，名称及び代表者の氏名 | | 水道事務所の所在地 | | 工事設計書に  記載する内容 | 施設の[一日最大給水量](#計画給水量)及び一日平均給水量 | | [水源の種別](#水源)及び取水地点 | | 水源水量（取水量）の概算及び水質試験の結果 | | [水道施設](#水道施設)の概要 | | [水道施設](#水道施設)の位置（標高，水位を含む。），規模及び構造 | | [浄水方法](#浄水方法) | | 工事着手及び完了の予定年月日 | | その他の書類  及び図面 | [給水人口](#給水人口)を記載した書類 | | 水の供給地域を記載した書類及び図面 | | [水道施設](#水道施設)の位置を明らかにする地図 | | [水源](#水源)及び浄水場周辺の概況を明らかにする地図 | | 主要な[水道施設](#水道施設)の構造を明らかにする平面図 | | 導水・送水・配水に使用する主要管路の配置状況を明らかにする平面図及び縦断面図 |   ●確認の際は，次の内容を記載した申請書に工事設計書と関係する図面などを添付し，施設所在地の首長あてに提出してください。  ●確認の適否は，申請受理日から30日以内に担当課から通知（「否」の場合は理由をつけて通知）されます。  専用水道の工事手続きに関する流れ  （審査）  給水開始  給水開始の届出  竣工  着工  申請書，添付書類の作成  [水源](#水源)の決定，施設設計  申請者に確認を通知  確認の申請  専用水道の設置（改造）に  ついて事前に[担当課](#担当課)と相談  ※[未確認専用水道](#未確認専用水道)  　居住人口の自然増により給水人口が100人を超えた自家用水道の設置者は「未確認専用水道報告書」により，施設概要を報告してください。 | |

|  |  |
| --- | --- |
| 20　工事後の給水再開 | **→ 目次に戻る** |
| ●[布設工事](#_19_布設工事と確認)が終了して給水を再開しようとする時は，前もって[担当課](#担当課)に届け出なければなりません。  ●届出書には，次の書類を添付してください。  　なお，これらの書類は検査日から５年間保管しなければなりません。   |  |  | | --- | --- | | 施設検査書 | 工事に伴う新設，増設又は改造施設及び，工事により影響を受ける施設（[給水装置](#給水装置)を含む）に関し，次の必要な項目について検査を行い，異常のないことを[水道技術管理者](#_６_水道技術管理者の任務)が確認した書面。  ・浄水及び消毒の能力  ・流量，圧力，耐久力  ・汚染ならびに漏水の有無 | | [水質検査](#_11_水質検査)  成績書 | 給水栓（又は水質を同じくする点）で採水した水が，[水質基準](#水質基準)に適合する旨を記載した検査成績書で，[登録検査機関](#登録検査機関)が発行したもの。 |   ●いずれかの検査で不備が認められた場合は，改善措置を講じた後に再検査を実施し，適正であることを確認してから届け出てください。  ●管路の布設や施設の修繕など，[布設工事](#_19_布設工事と確認)に該当しない工事については，この届け出は必要ありません。  ただし，届出の義務がないだけですので，どのような工事であれ，工事後の清掃，消毒，水圧試験，施工確認，供給水の[水質検査](#_11_水質検査)は，[設置者](#_３_専用水道の「設置者」)の責任において必ず実施してください。 | |

|  |  |
| --- | --- |
| 21　設置者の名称・住所の変更 | **→ 目次に戻る** |
| ●[専用水道の設置者](#_３_専用水道の「設置者」)又は管理事務所の所在地に変更を生じた場合は，速やかに[担当課](#担当課)に届け出なければなりません。  ●[設置者](#_３_専用水道の「設置者」)が個人であれば改名・転居の際に，[設置者](#_３_専用水道の「設置者」)が組合又は法人であれば次の場合に届け出が必要となります。  　① 社名（組合，団体名）の変更  　② 代表者氏名の変更  　③ 水道管理事務所の移転  ●上記の①②には[水道施設](#水道施設)の承継（譲渡）に伴うものも含まれますが，この場合は承継（譲渡）を受けた者が届け出ることとなります。  ●上記③の事務所は，一般には代表者の勤務地ですが，[水道技術管理者](#_６_水道技術管理者の任務)が勤務している施設が別にある場合は，いずれを事務所と見なすか[担当課](#担当課)に相談してください。  ●届出の際に（変更後の）登記簿の写しなどを添付するか否かは，[担当課](#担当課)に確認してください。 | |

|  |  |
| --- | --- |
| 22　業務の委託 | **→ 目次に戻る** |
| ●専用水道の技術上の業務（下表）をその責任も含めて他者に委託した場合は，速やかに[担当課](#担当課)に届け出なければなりません。   |  |  | | --- | --- | | 技術上の業務 | 説　　明 | | [水道施設](#水道施設)の  [施設基準](#施設基準)適合検査 | [水道施設](#水道施設)に損壊がなく，本来の機能が維持されていることの恒常的な点検 | | [給水開始前の](#_20_工事後の給水再開_)  [水質検査及び施設検査](#_20_工事後の給水再開_) | 工事が適正に完了していること，給水前の水質が[基準](#水質基準)に適合していることの確認 | | ★[水質検査](#_11_水質検査) | [定期検査](#_11_水質検査)の実施と水質が正常であることの確認，[水質異常時における臨時検査](#_11_水質検査)の実施 | | [職員の健康診断](#_15_水質に異常を生じた場合の対応) | 施設管理に従事する職員が伝染病に罹患していないことの確認 | | [衛生上の措置](#_11_施設管理における留意点) | 施設の清掃及び施設内の清潔保持 | | [給水の緊急停止](#_13_水質検査を行う際の留意点) | [水質異常](#_13_水質検査を行う際の留意点)を把握した際の[給水停止](#_13_水質検査を行う際の留意点)措置と関係者への周知 |   ※ 上記業務をすべて委託すれば，受託者が任命する水道技術管理者が業務を行うこととなり，委託者が[水道技術管理者](#_６_水道技術管理者の任務)を置く必要はなくなります。  ※ なお，上記業務の委託であっても，責任が委託者側に残る場合は届出はいりません。  ※ また，上記の★以外の業務の全部を委託する場合に限り，受託者から[登録検査機関](#登録検査機関)への[水質検査](#_11_水質検査)の委託が可能となります。（その場合以外は，[設置者](#_３_専用水道の「設置者」)の義務として残ります。）  ●委託の検討に際しては，厚生労働省水道課の「第三者委託の手引き」を参考としてください。なお，水道施設の運転管理が技術的に困難となりつつある場合は，[担当課](#担当課)とも相談して，信頼できる第三者への業務委託を検討してください。  [**→「第三者委託の手引き」リンク**](http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/kenkou/suido/hourei/jimuren/h19/191108-2.html)   |  | | --- | | 契約書に記載すべき事項 | | 委託に係る業務内容（委託の範囲） | | 委託契約の期間及びその解除に関すること | | 委託業務の実施体制に関すること |   ●委託に際しては，次の事項を明記した契約書を作成しなければなりません。   |  | | --- | | 届出書に記載すべき事項 | | [専用水道設置者](#_３_専用水道の「設置者」)の氏名　※ | | 業務受託者の住所及び氏名　※ | | 受託[水道技術管理者](#_６_水道技術管理者の任務)の氏名 | | 受託業務の範囲 | | 契約期間 |   ●届出書には次の事項を記載（又は関係資料を添付）しなければなりません。  ※ 組合又は法人にあっては，代表者の氏名。  ●公営の専用水道に指定管理者制度を適用する場合は，「施設の管轄部局から指定管理者に業務を委託する」旨の届出が必要になります。 | |

|  |  |
| --- | --- |
| 23　専用水道の休廃止 | **→ 目次に戻る** |
| ●専用水道を（再開を前提に一時）休止する場合は，休止の期間及び理由を[担当課](#担当課)に連絡してください。  　なお，施設休止の間は水道業務が発生しないことから，[水道技術管理者](#_６_水道技術管理者の任務)は空席でも構いません。  ●専用水道は，次のような事態が生じれば専用水道でなくなることから，担当課に連絡して廃止届を提出してください。  ① [給水人口](#給水人口)が100人以下に減少し，早期回復の見込みがない。  ② 施設の縮小により，[生活の用に供する水量](#計画給水量)が20㎥／日 以下となる。  　③ 水道局の管路と接続し，居住者が個々に水道料金を支払う形に移行する。  　④ 施設が閉鎖される。  ●上記①②の場合は，専用水道廃止後の[水道施設](#水道施設)の管理方法を記述してください。  例）県市町の行政指導に従い，[塩素消毒](#_11_施設管理における留意点)及び水質の定期検査を行う。  また，②の場合は，水量算定に係る資料を届出書に添付してください。  ●廃止届が受理された後は，[専用水道設置者](#_３_専用水道の「設置者」)の[水道法](#水道法)上の義務及び[罰則](#罰則)の適用はなくなり（※），[担当課](#担当課)の行政指導に従って施設を管理していただくこととなります。  ※ ただし，[施設基準](#水道施設)及び[水質基準](#水質基準)は引き続き適用され，水道に起因する問題が発生した場合は，民事上の管理責任を問われることがあります。 | |

用語の解説

給水人口（きゅうすい じんこう）

　・水道により水の供給を受ける人の数です。

　・専用水道の場合は，施設内に居住する人（住人，従業員）又は長期滞在者（老人入所者等）の数を指し，病院の入院者，通勤・通学者，観光客，入場者などは含まれないため，給水人口が０人の専用水道もあります。

給水装置（きゅうすい そうち）

　・居住者（利用者）に水を供給するため，水道の配水管に容易に取り外せない形で直結される器具（ガス給湯器，自動湯張り風呂釜，蛇口など）及び給水管のことです。

・専用水道の場合，給水装置の構造及び材質，工事業者に係る制約はありませんが，給水の安全性の観点からは，水道局が指定する業者に然るべき製品の設置を依頼することが望ましいと言えます。

給水停止（きゅうすい ていし）

　・専用水道の設置者は，供給する水が人の健康を害するおそれがあると知った時は，直ちに給水を止めなければならないとされています。

　・また，施設や水質に異常があるにも関わらず，専用水道の設置者が改善指示に従わない場合には，利用者保護の観点から水道監視員が給水の停止を命じることがあります。

クリプトスポリジウム

　・水道水を介して大規模な集団感染を引き起こす病原微生物の一つで，塩素耐性が強く，水道水の消毒程度では不活化できないのが特徴です。



5μm

クリプトスポリジウムのオーシスト

・ウシ，ブタ，イヌなど広範囲の哺乳類を宿主とし，ヒトの腸管に感染して腹痛，下痢などの症状を引き起こします。宿主の体外では「オーシスト」という円形の被嚢を形成します。

・国の対策指針には，汚染のおそれがある水についての対策が，汚染のおそれのレベル毎に明記されています（下表）。

・類似の特徴を持つ生物にジアルジアがあり，「クリプトスポリジ

ウム等」と表記する場合は，この２つを指します。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 原水の汚染のおそれのレベル | レベルの説明 | クリプト等の検査 | 恒久的な対策 |
| レベル４ | 表流水源で指標菌を検出 | 指標菌：１ヶ月に１回以上  クリプト等：３ヶ月に１回以上 | ろ過施設の設置  代替水源の確保 |
| レベル３ | 表流水以外の水源で指標菌を検出 | 指標菌：１ヶ月に１回以上  クリプト等：３ヶ月に１回以上 | ろ過施設又は紫外線照射施設の設置，代替水源の確保 |
| レベル２ | 深井戸以外の水源で指標菌不検出 | 指標菌：３ヶ月に１回以上 | （対策の必要なし） |
| レベル１ | 深井戸で指標菌不検出 | 年１回の水質検査  地表水の混入のおそれを確認 | （対策の必要なし） |

計画給水量（けいかく きゅうすいりょう）

　・施設設計の基本となる水量で，各用途における水量（一人一日平均給水量の原単位を基に算出）を積算したものです。

　・確認申請の際には「一日当たりの最大使用水量」として記載していただきます。

　・生活の用（下表）に供する一日最大給水量が20㎥を超える自家用水道は，給水人口の大小に関わらず専用水道となります。

|  |  |
| --- | --- |
| 「生活の用」に該当 | 〃　に該当しない用途 |
| 飲用，炊事，入浴，洗顔，  トイレ，清掃　等 | 散水，防火，空調，プール，  事業目的の使用（公衆浴場，食品製造など）　等 |

嫌気性芽胞菌（けんきせい がほうきん）

・空気の乏しい状況で生育できる細菌の一種で，保存性のある微生物の良いトレーサーとなることから，クリプトスポリジウムやジアルジアの指標菌として使われます。

・大腸菌と同様，糞便中に存在しますが，環境中からも検出されます。

残留塩素（ざんりゅう えんそ）

　・水中に，消毒効果を持つ状態で存在する塩素のことで，次亜塩素酸及びそのイオンの形で存在するものを「遊離残留塩素」，窒素化合物（アンモニアなど）との結合体として存在するものを「結合残留塩素」と呼んで区別します。

自家用水道（じかよう すいどう）

・水道を設置した者が，自らの用に供する水道です。

・自家用水道の例としては，寄宿舎，社宅，療養所，宿泊所，学校，養老施設，工場・事業所，レジャー施設などがあります。

施設基準（しせつ きじゅん）

・「水道施設の技術的基準を定める省令」の略で，水道施設の配列，構造，材質，性能，水道用の資機材及び薬品などに関する条件を定めたものです。

・確認申請書の審査の根拠となる基準であるため，各施設がこの基準に適合しているか検証しながら関係資料を作成してください。

指標菌（しひょう きん）

　・微生物の存否を知るために利用する細菌で，水道においては，水の一般的な汚染を知るために一般細菌が，糞便汚染を知るために大腸菌（群）が用いられる。

・クリプトスポリジウム等の存在のおそれの判断には，大腸菌と嫌気性芽胞菌が用いられ，これらのいずれかが検出された場合は「汚染のおそれのある水源」として対策を講じることとなります。

浄水受水専用水道（じょうすい じゅすい せんようすいどう）

・水道局から供給された水を貯水槽に受けてから給水する専用水道のことです。

・水道局の水質検査結果に基づき検査項目を相当程度削減できますが，その他の事項に関しては専用水道と同等の規制を受けます。

浄水方法（じょうすい ほうほう）

・水を水質基準に適合した水道水に変え，安定して供給するための処理方法のことです。

・現在実用化されている主なものは下表のとおりで，この中から水源の水質，用地面積，運転経費等を勘案して最適なものを選定します。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 方法 | 原理・操作等 | 水量 | 処理水の特徴，原水の要件 |
| 急速  ろ過 | 薬品注入・撹拌後，砂層を高速で通して懸濁物を除く | ◎大量の処理水が得られる | ◎比較的汚い原水にも対応できる  ○良好な水質が得られるが，かび臭や溶存物は除去できない。  ○クリプトスポリジウム等除去可  ▲使用する薬品量が多い。 |
| 緩速  ろ過 | 広い浄水池を用い，砂層表面に発生する微生物層をゆっくり通して懸濁物を除く | ▲浄水場面積の割に処理水量は少ない | ◎一部溶存物の分解・除去も期待でき，良好な水質が得られる  ○クリプトスポリジウム等除去可  ▲維持管理に熟練を要する  ▲きれいな原水の処理に向いている |
| 膜ろ過 | 微細な穴の開いた膜を通過させ，懸濁物を除く | ○少ない浄水場面積で一定の処理水が得られる | ◎維持管理が平易  ○良好な水質が得られるが，かび臭や溶存物は除去できない  ○クリプトスポリジウム等除去可  ▲きれいな原水の処理に向いている |
| 吸着 | 汚染物質(ヒ素，鉄，ﾏﾝｶﾞﾝ，臭気等)を吸着剤で除去する | 処理水量は施設規模による | ▲目的物質以外の除去効果がないため，他の浄水方法と併用されることが多い |
| 消毒  のみ | 塩素剤を注入して滅菌する | 処理水量に関係しない | ▲殺菌以外の浄水効果なし  ▲水質が極めて良好な原水にのみ有効 |
| 紫外線  処理 | 一定強度以上の紫外線を照射する | 処理水量は施設規模による | ○クリプトスポリジウム等による汚染のおそれがある場合に，これを不活化させるために用いる手法 |

新規専用水道（しんき せんようすいどう）

・平成13年の法改正で新たに規制対象となった，生活の用に供する一日最大給水量が20㎥を超過する専用水道のことです。

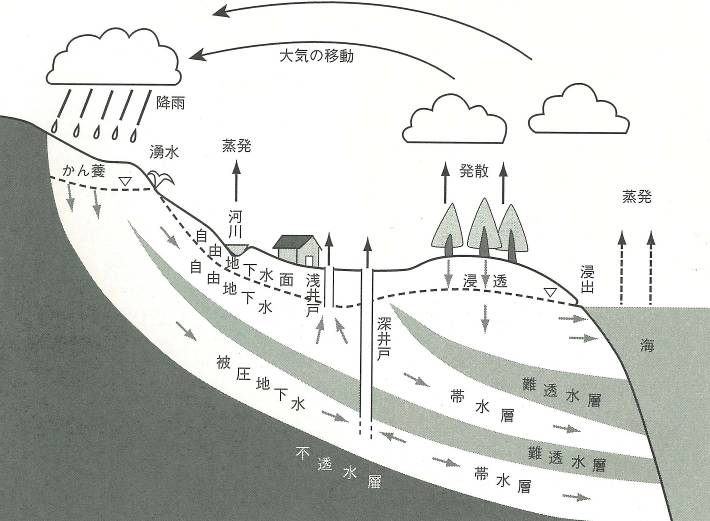
・水道法上は，従前の専用水道と同等の規制を受けます。

水源（すいげん）

　・一般に水を取水する地点か，又はその形態を指します。後者は次の名称で区分されます。

　　① 地表水（ちひょうすい）　… 河川，湖沼，ダムから取水するものです。

　　② 伏流水（ふくりゅうすい）… 河床下に埋設した管路から取水するものです。

　　③ 地下水（ちかすい）

… 井戸から取水するもので，

取水深が難透水層より上の

ものを浅井戸，下のものを

深井戸と呼んで区別します。

　　④ 湧水（ゆうすい）

… 岩盤や池底などからの湧き

水を取水するものです。

⑤ 受水（じゅすい）

… 水道局から給水を受けるも

のです。

水質基準（すいしつ きじゅん）

・「水道水質の基準を定める省令」の略で，水道水の供給に当たり，使用時の安全衛生を確保する観点から，水道水中に含まれる細菌や有害物質の濃度の上限を定めたものです。

・現在は51項目が定められ，専用水道においても，供給する水が要件に適合するかどうかを検査することとされています。

・水質基準の超過が判明した場合，設置者は，直ちに給水を停止し，関係者に飲用を控えるよう連絡するなど健康被害の防止に努めなければなりません。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 項目名 | 基準値 | 項目名 | | 基準値 |
| １ | 一般細菌 | 100個/ml以下 | 27 | 総トリハロメタン | 0.1 mg/L以下 |
| ２ | 大腸菌 | 検出されない | 28 | トリクロロ酢酸 | 0.03 mg/L以下 |
| ３ | カドミウム及びその化合物 | 0.003 mg/L以下 | 29 | ブロモジクロロメタン | 0.03 mg/L以下 |
| ４ | 水銀及びその化合物 | 0.0005 mg/L以下 | 30 | ブロモホルム | 0.09 mg/L以下 |
| ５ | セレン及びその化合物 | 0.01 mg/L以下 | 31 | ホルムアルデヒド | 0.08 mg/L以下 |
| ６ | 鉛及びその化合物 | 0.01 mg/L以下 | 32 | 亜鉛及びその化合物 | 1.0 mg/L以下 |
| ７ | ヒ素及びその化合物 | 0.01 mg/L以下 | 33 | アルミニウム及びその化合物 | 0.2 mg/L以下 |
| ８ | 六価クロム化合物 | 0.05 mg/L以下 | 34 | 鉄及びその化合物 | 0.3 mg/L以下 |
| ９ | 亜硝酸態窒素 | 0.04 mg/L以下 | 35 | 銅及びその化合物 | 1.0 mg/L以下 |
| 10 | ｼｱﾝ化物ｲｵﾝ及び塩化ｼｱﾝ | 0.01 mg/L以下 | 36 | ナトリウム及びその化合物 | 200 mg/L以下 |
| 11 | 硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素 | 10 mg/L以下 | 37 | マンガン及びその化合物 | 0.05 mg/L以下 |
| 12 | フッ素及びその化合物 | 0.8 mg/L以下 | 38 | 塩化物イオン | 200 mg/L以下 |
| 13 | ホウ素及びその化合物 | 1.0 mg/L以下 | 39 | ｶﾙｼｳﾑ，ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ等（硬度） | 300 mg/L以下 |
| 14 | 四塩化炭素 | 0.002 mg/以下 | 40 | 蒸発残留物 | 500 mg/L以下 |
| 15 | 1,4-ジオキサン | 0.05 mg/L以下 | 41 | 陰イオン界面活性剤 | 0.2 mg/L以下 |
| 16 | ｼｽ及びﾄﾗﾝｽ-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ | 0.04 mg/L以下 | 42 | ジェオスミン | 0.00001 mg/L以下 |
| 17 | ジクロロメタン | 0.02 mg/L以下 | 43 | 2-メチルイソボルネオール | 0.00001 mg/L以下 |
| 18 | テトラクロロエチレン | 0.01 mg/L以下 | 44 | 非イオン界面活性剤 | 0.02 mg/L以下 |
| 19 | トリクロロエチレン | 0.01 mg/L以下 | 45 | フェノール類 | 0.005 mg/L以下 |
| 20 | ベンゼン | 0.01 mg/L以下 | 46 | 有機物(全有機炭素(TOC)の量) | 3 mg/L以下 |
| 21 | 塩素酸 | 0.6 mg/L以下 | 47 | ｐＨ値 | 5.8以上8.6以下 |
| 22 | クロロ酢酸 | 0.02 mg/L以下 | 48 | 味 | 異常でないこと |
| 23 | クロロホルム | 0.06 mg/L以下 | 49 | 臭気 | 異常でないこと |
| 24 | ジクロロ酢酸 | 0.03 mg/L以下 | 50 | 色度 | 5度以下 |
| 25 | ジブロモクロロメタン | 0.1 mg/L以下 | 51 | 濁度 | 2度以下 |
| 26 | 臭素酸 | 0.01 mg/L以下 |  |  |  |

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　平成27年4月1日施行

水質検査計画（すいしつ けんさ けいかく）

・定期検査の実施予定（どの項目をどの時期に何回）と臨時検査の手法等を定めた計画で，専用水道設置者は前年度内に策定しなければなりません。

水道施設（すいどう しせつ）

・水道を構成する水源，導水施設，浄水施設，送配水施設，給水タンク及びこれらを連絡する管路を言います。

・専用水道の設置者が管理するのであれば，水源や設備は他者の所有物（借り物）であっても構いません。

水道法（すいどう ほう）

・「清浄」「豊富」「低廉」な水の供給を通じ，公衆衛生の向上と生活環境の改善を目的とする法律で，専用水道もこの法律の中で定義されています。

・また，専用水道の設置者や自治体の水道局に適用される法規制についても同様に記載されています。

大腸菌（だいちょう きん）

・人及び温血動物の体内に特異的に生息する菌種であり，糞便由来を強く示すことからクリプトスポリジウム等の指標菌として用いられます。

・一般に毒性はありませんが，O-157のように病原性を示すものもあります。

担当課（たんとうか）

・専用水道の立地地区を管轄する自治体部局（下表：平成30年４月現在）のことです。

・担当課には水道監視員がおり，立入検査などを通じて法令順守の状況を確認し事故情報の把握する傍ら，施設管理に関する相談にも応じています。また，水道関係の通知や各種調査もここから皆様に送られます。

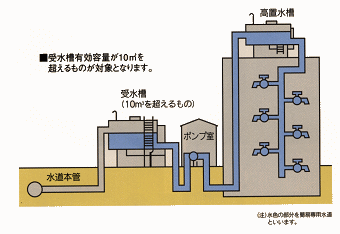
|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 自治体名 | 担当課 | 電話 | 自治体名 | 担当課 | 電話 |
| 広島市 | (保健所)環境衛生課 | 082-241-7408 | 尾道市 | 環境政策課 | 0848-38-9434 |
| 福山市 | (保健所)生活衛生課 | 084-928-1165 | 府中市 | 市民課 | 0847-43-7207 |
| 呉市 | (保健所)生活衛生課 | 0823-25-3538 | 三次市 | 環境政策課 | 0824-62-6136 |
| 大竹市 | 環境整備課 | 0827-59-2154 | 庄原市 | 環境政策課 | 0824-72-1398 |
| 廿日市市 | 環境政策課 | 0829-30-9132 | 北広島町 | 上下水道課 | 050-5812-1861 |
| 江田島市 | 地域支援課 | 0823-43-1637 | 大崎上島町 | 上下水道課 | 0846-64-3513 |
| 安芸高田市 | 環境生活課 | 0826-42-1126 | 世羅町 | 上下水道課 | 0847-22-0533 |
| 竹原市 | まちづくり推進課 | 0846-22-2279 | 神石高原町 | 環境衛生課 | 0847-89-3336 |
| 東広島市 | 環境対策課 | 082-420-0928 | 熊野町，府中町，海田町，坂町  安芸太田町 | 広島県西部保健所 生活衛生課 | 0829-32-1181  (内線)2422 |
| 三原市 | 生活環境課 | 0848-67-6179 |

※ 府中町，海田町，坂町，大崎上島町には，平成29年３月時点で専用水道はありません。

貯水槽（ちょすいそう）

・浄水処理をした水を居住者（利用者）に供給するために貯留しておく水槽です。

・水道からすべての水の供給を受ける場合であっても，給水人口が100人超又は計画給水量が20㎥超のもののうち，接地又は地中部分の水槽の有効容量の合計が100㎥を超えるものは専用水道となります。

貯水槽水道（ちょすいそう すいどう）

・水道からすべての水の供給を受ける専用水道以外の水道のうち，水を一旦水槽に受けて居住者（利用者）に供給するもので，ビル，マンション等に多く見られる形態です。

青色で表示される部分が

貯水槽水道

・水道管から分岐後の水槽，送水管，加圧ポンプ，高置水道，給水管を言います。

・水槽の有効容量の合計が10㎥を超えるものは，簡易専用水道として水道法の規制を受け，そうでないものは小規模貯水槽水道と呼ばれます。

直結（ちょっけつ）

　・水道管内の圧力を利用して給水する方式で，貯水槽式と異なる方法です。

　・浄水受水の専用水道が，貯水槽をなくして水道管から直結給水するようになれば，その時点で専用水道ではなくなります。

　・井戸水と浄水を併用する場合，両者の配管を直結することは水道法で禁止されています。

（井戸水の汚染が水道水に及ぶため。消毒後の井戸水を貯水槽内で混合することは可能。）

登録検査機関（とうろく けんさきかん）

　・水道水の検査は，専用水道の設置者自らが行うか，自治体の検査所又は国の登録を受けた検査機関に委託して行うこととされています。

　・平成30年４月現在，広島県内に主たる事務所を置く機関は下表のとおりです。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 検査機関名 | 所　在　地 | 電話番号 |
| (一財)広島県環境保健協会 | 〒730-8631　広島市中区広瀬北町9-1 | (082)293-1514 |
| ㈱エヌ・イー　サポート | 〒733-0812　広島市西区己斐本町三丁目13-16 | (082)272-9000 |
| 中外テクノス㈱ | 〒733-0013　広島市西区横川新町9-12 | (082)295-2263 |
| ㈱日本総合科学 | 〒721-0957　福山市箕島町南丘399-46 | (084)981-0181 |
| 富士企業㈱ | 〒731-5136　広島市佐伯区楽々園四丁目6-19 | (082)923-0188 |
| ㈱アサヒテクノリサーチ | 〒739-0622　大竹市晴海二丁目10-22 | (0827)59-1800 |
| ㈱中国環境分析センター | 〒725-0025　竹原市塩町一丁目3-1 | (0846)22-2629 |
| ラボテック㈱ | 〒731-5128　広島市佐伯区五日市中央六丁目9-25 | (082)921-5531 |
| 東和環境科学㈱ | 〒730-0841　広島市中区舟入町6-5 | (082)297-6111 |
| ㈱三井開発 | 〒739-0151　広島県東広島市八本松町原4792 | (082)429-3231 |

罰則（ばっそく）

　・水道法に定める罰則は，水道施設を損壊又は操作して水の供給を妨げた者や，水道法の義務を履行せず行政指導（処分）にも従わないなど悪質な者に対して適用されます。

・このうち，専用水道に関係するものは下表のとおりです。

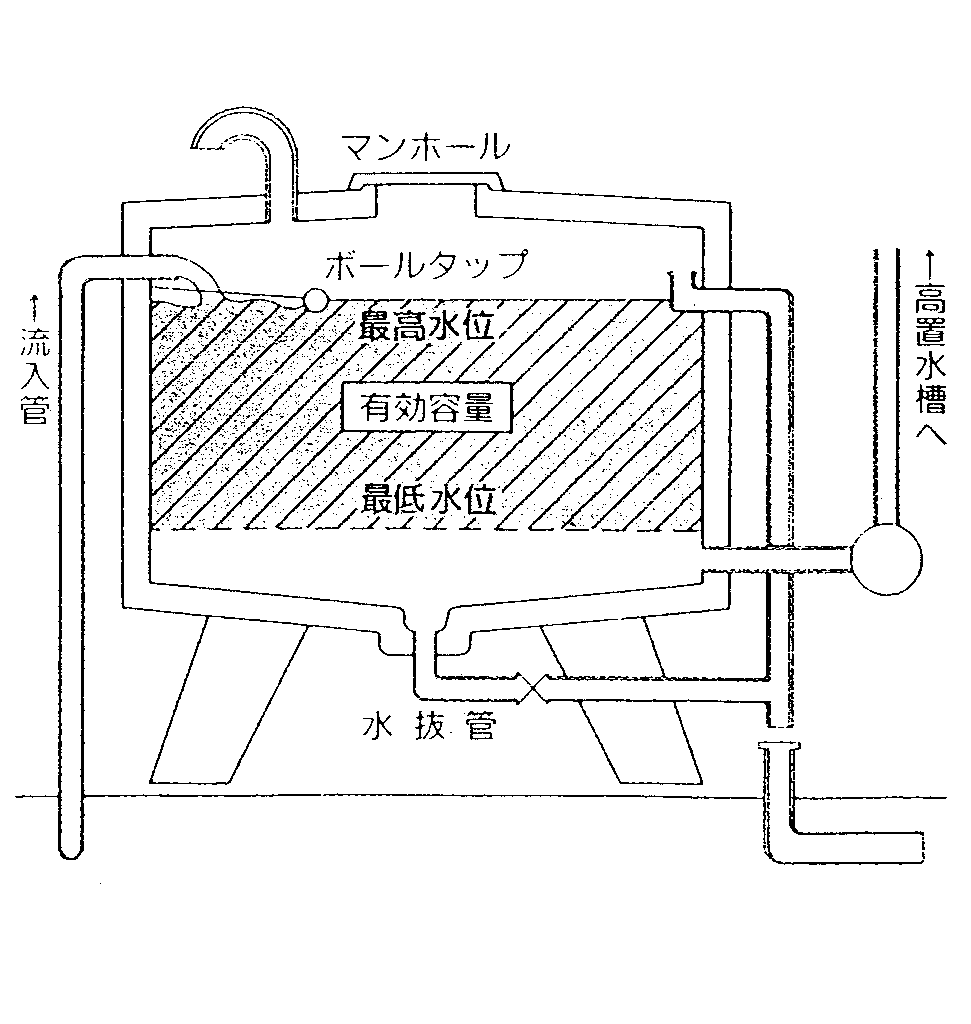
|  |  |
| --- | --- |
| 内　　　容 | 罰　則 |
| 水道技術管理者の設置義務違反 | １年以下の懲役  又は  100万円以下の罰金 |
| 受託能力のない者への業務管理委託 |
| （水道管理業務受託者における）  受託水道業務技術管理者の設置義務違反 |
| 給水開始前の水質検査及び施設検査の不履行 | 100万円以下の罰金 |
| 水質検査に関する違反 |
| 健康診断に関する違反 |
| 衛生上の措置に関する違反 |
| 確認を受けない専用水道布設工事の着手 |
| 業務委託の届出に係る違反 | 30万円以下の罰金 |
| 報告の拒否，虚偽の報告，立入の妨害・忌避 |

未確認専用水道（みかくにん せんようすいどう）

・集合住宅などで，居住人口がある時期に百人を超え，専用水道の要件に合致したものを便宜的にこう呼びます。

・布設工事を伴わないため確認申請は必要ありませんが，施設の現況を把握するため担当課から届出を指導されることがあります。

・水道法上は，専用水道と同等の規制を受けます。



有効容量（ゆうこう ようりょう）

・貯水槽の総容量のうち，利用可能な水を貯留する部分の容

積で，貯水槽の見かけの容量とは異なります（右図）。

・有効容量には，高置水槽分の容量は加算されません。

平成 年 月 日

　広島県知事　様

　　　　　　　　　　　　　　　　　住　所

　　　　　　　　　　　　　　　　　氏名又は名称

　　　　　　　　　　　　　　　　　代表者の氏名

専用水道布設工事の確認について（申請）

　この布設工事を実施したいので，水道法第３３条第１項の規定により，工事設計書その他厚生労働省令で定める書類を添えて申請します。

主たる事務所の所在地

名称及び代表者の氏名

水道事務所の所在地

専用水道の所在地

（申請書添付書類）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 給水人口 | | 人 | | | 給水量 | 一日最大(ｍ3／日) | | | | | |  | |
| 一人一日最大(㍑／人・日) | | | | | |  | |
| 一日平均(ｍ3／日) | | | | | |  | |
| 一人一日平均(㍑／人・日) | | | | | |  | |
| 負荷率（％） | | | | | |  | |
| 給水人口及び給水量の設計根拠 | |  | | | | | | | | | | | |
| 工事着手予定年月日 | | 年　月　日着手予定 | | | | | 工事完了予定年月日 | | | 年　月　日完成予定 | | | |
| 給水区域 | ※給水区域内全体の，給水管等系統図を添付すること。 | | | | | | | | | | | | |
| 技術管理者 | 職　　　名 | |  | | | | | | | | | | |
| 氏　　　名 | |  | | | | | | | | | | |
| 住所･連絡先 | | ℡　　　（　　　） | | | | | | | | | | |
| 水質検査 | 機関名称 | |  | | | | | | 結果 | | 年　　月～　　年　　月実施 | | |
| 所在地 | |  | | | | | | 別紙成績書のとおり○○の項目が不適 | | |
| 薬品等注入設備の概要 | 種　　類 | | 使用薬剤 | 機種，能力，材質 | | | | 注入量  調節範囲 | | | 予備設備  (能力) | | 予備薬剤槽  (容量)※補充用薬液の備蓄も可 |
|  | |  |  | | | | ～ | | |  | | ㍑ |
|  | |  |  | | | | ～ | | |  | | ㍑ |
|  | |  |  | | | | ～ | | |  | | ㍑ |
| 液化塩素を使用する場合は，漏えい等緊急時の除害剤等の配置計画について記入してください。  １　除害剤の種類・保有数量  ２　緊急時等用の作業服等保有数量 | | | | | | | | | | | | |

|  |
| --- |
| 水　道　施　設　フ　ロ　ー　図 |
|  |

　※主要設備のほか，濁度計，pH計等の測定機器の位置についても記入すること。

**《水道施設の概要》**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 施設種別 | 主要設備 | 機能の概要説明 |
| 水　　源 |  | ※水源水量の調査書を添付のこと |
| 取水施設 |  |  |
| 貯水施設 |  |  |
| 導水施設 |  |  |
| 浄水施設 |  |  |
| 送水施設 |  |  |
| 配水施設 |  |  |
| 備　　考 |  | ※消火栓を併設するときは，水理計算を添付のこと。 |

※施設の位置，配置について図面を添付すること。

※必要に応じて，記入欄を適宜追加・削除して差し支えない。

**《水道施設の位置，規模及び構造》**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 施設  種別 | 主要設備 | | 位置(番地まで記載) | 標高  (m) | 水位(cｍ) | | | 構造(寸法・能力) | 構造材 |
| 名称 | 番号 | 高 | 中 | 低 |
| 水源 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 取水 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 貯水 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 導水 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 浄水 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 送水 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 配水 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |

※必要に応じて，記入欄を適宜追加・削除して差し支えない。

**《浄水方法》**

１　浄水方法

(1) 水質検査結果の概要

　(2) 採用する浄水方法

　(3) 浄水方法採用の理由

２　水質監視等測定機器一覧

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 測定機器 | 設置場所 | 機種名(検出範囲，最小検出値) |
| ｐＨ計 |  |  |
| 濁度計 |  |  |
| 水位計 |  |  |
| 水量計 |  |  |
| その他（　　　） |  |  |

３　緊急時対応の方法

４　添付図面

○　水の供給が行われる地域の図面

○　水道施設の位置を明らかにする地図

○　水源及び浄水場の周辺の概況を明らかにする地図

○　主要な水道施設の構造を明らかにする平面図，立面図，断面図及び構造図

○　導水管きょ，送水管並びに配水及び給水に使用する主要な導管の配置状況を明らかにする平面図及び縦断面図

平成 年 月 日

　　　　　　保健所長　様

　　　　　　　　　　　　　　　　　住　所

　　　　　　　　　　　　　　　　　氏名又は名称

　　　　　　　　　　　　　　　　　代表者の氏名

給　水　開　始　届

　次のとおり給水を開始したいので，水道法第３４条第１項において準用する第１３条第１項の規定により届け出ます。

|  |  |
| --- | --- |
| 水道の名称 | 専用水道 |
| 確認年月日番号 | 平成　　年　　月　　日　　　　　　第　　号 |
| 工事竣工年月日 | 平成　　年　　月　　日 |
| 給水開始予定年月日 | 平成　　年　　月　　日 |
| 給水開始区域 |  |
| 水道工事の内容 |  |

平成 年 月 日

　広島県知事　様

　　　　　　　　　　　　　　　　　住　所

　　　　　　　　　　　　　　　　　氏名又は名称

　　　　　　　　　　　　　　　　　代表者の氏名

専用水道業務委託届

　　　　　専用水道における水道の管理に関する技術上の業務の全部（一部）を，水道法３４条第１項において準用する第２４条の３第１項の規定に基づき委託したので，同法第３４条第１項において準用する第２４条の３第２項の規定により届け出ます。

|  |  |
| --- | --- |
| 専用水道設置者の  氏名又は名称 |  |
| 水道管理業務受託者の  主たる事務所の所在地，  名称及び代表者氏名 |  |
| 受託水道業務技術管理者の氏名 |  |
| 委託した業務の範囲 |  |
| 契約期間 |  |

平成 年 月 日

　広島県知事　様

　　　　　　　　　　　　　　　　　　住　所

　　　　　　　　　　　　　　　　　　氏名又は名称

　　　　　　　　　　　　　　　　　　代表者の氏名

専用水道業務委託契約効力喪失届

　平成　　年　　月　　日付けで届け出た　　　　　　専用水道における水道の管理に関する技術上の業務の委託に係る契約が効力を失ったので，水道法第３３条において準用する第２４条の３第２項の規定により届け出ます。

|  |  |
| --- | --- |
| 専用水道設置者の  氏名又は名称 |  |
| 水道管理業務受託者の  主たる事務所の所在地，  名称及び代表者氏名 |  |
| 受託水道業務技術管理者の氏名 |  |
| 委託した業務の範囲 |  |
| 契約期間 |  |
| 当該契約が効力を失った  理由 |  |

経理的及び技術的な基礎を有する者の確認方法について

|  |  |
| --- | --- |
| 保　　健　　所　　名 |  |
| 専用水道設置者の名称 |  |

１　経理的な基礎の判断について

　　どんな資料を受託者から提出させましたか。

　　・提出があった書類にチェックをしてください。

　　・これら以外の書類がある場合，５以降に記入してください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 提　　出　　書　　類 | チェック |
| １ | 貸借対照表・損益計算書 |  |
| ２ | 賠償保険加入証（保険金額　　　　　　　　　円） |  |
| ３ | 登記簿謄本 |  |
| ４ | 確定申告書の写し及び納税証明書 |  |
| ５ |  |  |
| ６ |  |  |

２　技術的な基礎の判断について

　　どんな資料を受託者から提出させましたか。

　　・提出があった書類にチェックをしてください。

　　・これら以外の書類がある場合，３以降に記入してください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 提　　出　　書　　類 | チェック |
| １ | 受託者の事業概要 |  |
| ２ | 水道技術管理者資格証明 |  |
| ３ |  |  |
| ４ |  |  |
| ５ |  |  |
| ６ |  |  |

平成 年 月 日

　広島県知事　様

　　　　　　　　　　　　　　　　　住　所

　　　　　　　　　　　　　　　　　氏名又は名称

　　　　　　　　　　　　　　　　　代表者の氏名

専用水道記載事項変更届

　　　　　専用水道の申請書の記載事項に次のとおり変更があったので，同法第33条第３項の規定により届け出ます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 変更事項 | |  |
| 変更内容 | 変更前 |  |
| 変更後 |  |

平成　　年　　月　　日

　広島県知事　様

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　住所

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　氏名又は名称

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　代表者の役職・氏名

専用水道廃止届

　　　　専用水道を次のとおり廃止したので，届け出ます。

|  |  |
| --- | --- |
| 廃止年月日 | 平成 　　年　　月　　日 |
| 廃止の理由 |  |
| 廃止の方法 |  |

未確認専用水道の報告

様式（法第39条第２項関係）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 未確認専用水道報告書 | | × |  |
| × |  |
| ×受理年月日 | 年　　月　　日 |
| 事業場の名称 |  |  | |
| 分　　　類 | 1.幼稚園･小中高大学校等，２.病院･福祉施設等，  3.飲食店･ｽｰﾊﾟｰﾏｰｹｯﾄ等，４.旅館･ホテル等，  5.ゴルフ場･遊園地等ﾚｼﾞｬｰ施設，6.工場･事業場等，7.社宅等，  ８.地区水道(分譲住宅の水道等)，9.その他 | |
| 事業場所在地 | |  | |
| 水道事務所所在地 | | ℡　　　(　　　) | |
| 水道施設に関する事項 | | 別紙資料のとおり。  ※地図，施設図面等を添付させること | |

　　　　年　　月　　日

　　　　　　　　　　　　　　住所（法人又は組合にあっては，主たる事務所の所在地）

　　　　　　　　　　　　　　氏名（法人又は組合にあっては，代表者の氏名）　　　印

　広島県知事　様

１　記名押印にかえて署名することができる。

２　この用紙の大きさは，日本工業規格Ａ４とすること。

３　×印の項は記載しないこと。

４　別紙資料は，新規専用水道の届出内容に準ずること。

「　　　　　　　専用水道」　　　年度水質検査計画（水道技術管理者名：　　　　　　　　　）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(　　.　　.　　作成)　 ［1/3］

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| １　水質管理において留意すべき事項のうち水質検査計画に係るもの  (1) 水源の種類（浅井戸、深井戸、湧水、表流水、伏流水、湖沼水、他の水道事業からの受水専用、その他　　　　　）  　　水源の名称：  (2) 水源周辺の環境等(工場、し尿処理施設等の所在)について(地図を添付のこと)    (3) 過去の水質検査結果からの問題点(基準超過又は基準値に近接した項目及び検出レベルについて)    (4) 浄水施設(消毒のみ、除鉄・除ﾏﾝ、急速ろ過、緩速ろ過、膜ろ過、その他　　　　　　　　　　　　　　　　　　)  　　施設基準上の問題点：  (5) 自ら有する検査機器(残留塩素測定器、pH測定器、濁度測定器、その他　　　　　　　　　 　　　　　　　　　)  ２　定期の検査(施行規則第15条第1項)を行う項目については、当該項目、採水の場所、検査の回数及びその理由  　(1) 検査項目等全般については、別紙一覧表参照。  　　ア　毎日検査(　　　　時頃　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　　　　　　　　　　給水栓から採水)  　　イ　毎月検査(　　　　日頃に採水)  　　ウ　３月に１回の検査（　　　　月、　月、　月、　月の各　 日頃に採水）  　　エ　１年に１回の検査（　　　　月　 日頃に採水）  　　オ　３年に１回の検査（本年度検査分を　　　　月 　日頃に採水）  　　カ　水源周辺の環境等から、独自に水質基準外の　　　　　　　　　の項目について　　　　　周期で検査する。  　(2) 採水場所（一番遠方にある給水栓　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　から採水）  ３　定期の検査(施行規則第15条第1項)を省略する項目については、当該項目及びその理由  検査の省略又は検査回数の減を行う項目については、右欄の表を参照。  ４　臨時の検査(施行規則第15条第２項)に関する事項  　水道により供給される水が水質基準に適合しないおそれがある場合(原水の異常、死魚・異臭味の発生時等)に実施する。  (1) 水源周辺の環境から汚染原因となる懸念のある物質    (2) 検査の実施方法  　ア　検体の採水と運搬に係る事項：  　イ　委託検査予定先(担当者名)：  ５　法第20条第３項の規定により水質検査を委託して行う委託検査の内容  (1) 検査機関名称(所在地)：  (2) 緊急時の連絡方法(第１～第３順位まで記載)  ①　　　 　　　℡　　―　　―　　、②　　 　 　　　℡　　―　　―　　、③　 　　　　　℡　　―　　―  (3) 委託する項目：検査計画に定める全ての項目  ６　その他水質検査の実施に際し配慮すべき事項  (1) 給水停止等を行う場合の基準  ア　１回の検査により判明した基準値超過により直ちに給水停止する項目は、「微生物検査に係る項目」、「水銀及び  その化合物」及び「シアン化物イオン及び塩化シアン」とする。その他の項目については、再検査などを継続的に行いながら、原因究明、低減化対策及び給水停止等の対応を検討する。  イ　基準値に近接した値が検出された場合等  　　これまでの検査記録上、また、通常検出が考えられないような物質が検出された場合や基準値に近接した値  　(概ね　　　　　　　　割程度)が検出された場合等は、検査回数を増加させる等継続的なモニタリングを行う。  (2) 緊急時の情報伝達の方法(県保健所への報告も含む)    〔第１順位〕　　市（町）　　　　　課：℡　　　-　　　-　　　　　　　　　　　　　※休日・夜間を含む  〔第２順位〕　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ※休日・夜間を含む  (3) 信頼性保証に係る資料入手（委託先からの資料提供）に係る事項 | 検査の省略又は検査回数の増減を行う項目整理表・２の(1)のカにより独自に設定する項目 | | | | | | |
| 番号・項目名 | 増減・追加省略の別 | 理　　　由 | 番号・項目名 | | 増減・追加省略の別 | 理　　　由 |
|  | 減・略  増・追 |  |  | | 減・略  増・追 |  |
|  | 減・略  増・追 |  |  | | 減・略  増・追 |  |
|  | 減・略  増・追 |  |  | | 減・略  増・追 |  |
|  | 減・略  増・追 |  |  | | 減・略  増・追 |  |
|  | 減・略  増・追 |  |  | | 減・略  増・追 |  |
|  | 減・略  増・追 |  |  | | 減・略  増・追 |  |
|  | 減・略  増・追 |  |  | | 減・略  増・追 |  |
|  | 減・略  増・追 |  |  | | 減・略  増・追 |  |
|  | 減・略  増・追 |  |  | | 減・略  増・追 |  |
|  | 減・略  増・追 |  |  | | 減・略  増・追 |  |
|  | 減・略  増・追 |  |  | | 減・略  増・追 |  |
|  | 減・略  増・追 |  |  | | 減・略  増・追 |  |
|  | 減・略  増・追 |  |  | | 減・略  増・追 |  |
|  | 減・略  増・追 |  | ［凡例］ | 減：検査頻度の減  増：検査頻度の増  略：検査項目の省略  追：検査項目の追加(基準外項目を対象) | | |
|  | 減・略  増・追 |  |
|
|

※　記入欄が足りない場合は、各自で別紙を追加して記載すること(様式自由)。

［表］水質基準項目等の検査における、給水栓以外での採取の可否、検査の回数、検査の省略の可否検討表　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　［2/3］

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 水道法施行規則第１５条 | | | | | | | | | 参 考 | ※ａ　　検査計画 | | | | | | ※ｂ　省略の可否の判断 | | | | | ※ｃ 省略しない場合の検査回数減の可否の判断 | | | | | 番号  ※１ |
| 番号  ※１ | 項　目　名 | 基準値 | 給水栓以外で  の水の採取 | 検査回数(基本周期) | | | 検査回数の減 | 省略の可否 | 浄水受水のみの  専用水道 | 各設置者の設定周期 | | | | | | 水源周辺の状況等及び全検査履歴から判断 | | | | | 過去３年間の検査履歴から判断 | | | | |
| 毎日 | １月 | ３月 | 毎日 | １月 | ３月 | １年 | ３年 | 省略 | 水源及び周辺・問題無 | 薬品等資機材・問題無 | 近隣地下水の汚染無等 | 最高値vs.基準（％） | 最高値  (　.　.) | 最高値vs基準値（％） | 最高値  (　.　.) | 最新  (　.　.) | 前回  (　.　.) | 前々回  (　.　.) |
|  | 色、濁り及び消毒の残留効果 |  | 不可 | ○ |  |  | 不可 | 不可 |  | ● |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| １ | 一般細菌 | 100 個/ml以下 | 不可 |  | ○ |  | 不可 | 不可 |  |  | ● |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | １ |
| ２ | 大腸菌 | 検出されないこと | 〃 |  | ○ |  | 〃 | 〃 |  |  | ● |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | ２ |
| ３ | カドミウム及びその化合物 | 0.003 mg/L以下 | 一定の場合可注1) |  |  | ○ | 注２のとおり | 注３のとおり | 省略可 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | ３ |
| ４ | 水銀及びその化合物 | 0.0005mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 〃 | 〃 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | ４ |
| ５ | セレン及びその化合物 | 0.01 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 〃 | 〃 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | ５ |
| ６ | 鉛及びその化合物 | 0.01 mg/L以下 | 不可 |  |  | ○ | 〃 | 注４のとおり |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | ６ |
| ７ | ヒ素及びその化合物 | 0.01 mg/L以下 | 一定の場合可注1) |  |  | ○ | 〃 | 注３のとおり | 省略可 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | ７ |
| ８ | 六価クロム化合物 | 0.05 mg/L以下 | 不可 |  |  | ○ | 〃 | 注４のとおり |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | ８ |
| ９ | 亜硝酸態窒素 | 0.04 mg/L以下 | 一定の場合可注1) |  |  | ○ | 〃 | 不可 | 省略可 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | ９ |
| 10 | ｼｱﾝ化物ｲｵﾝ及び塩化ｼｱﾝ | 0.01 mg/L以下 | 不可 |  |  | ○ | 不可 | 〃 |  |  |  | ● |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 10 |
| 11 | 硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素 | 10 mg/L以下 | 一定の場合可注1) |  |  | ○ | 注２のとおり | 〃 | 省略可 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 11 |
| 12 | フッ素及びその化合物 | 0.8 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 注３のとおり | 〃 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 12 |
| 13 | ホウ素及びその化合物 | 1.0 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 注３のとおり(海水を原水とする場合不可) | 〃 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 13 |
| 14 | 四塩化炭素 | 0.002 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 注８）のとおり | 〃 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 14 |
| 15 | 1、4-ジオキサン | 0.05 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 〃 | 〃 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 15 |
| 16 | ｼｽ及びﾄﾗﾝｽ-1､2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ | 0.04 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 〃 | 〃 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 16 |
| 17 | ジクロロメタン | 0.02 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 〃 | 〃 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 17 |
| 18 | テトラクロロエチレン | 0.01 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 〃 | 〃 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 18 |
| 19 | トリクロロエチレン | 0.01 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 〃 | 〃 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 19 |
| 20 | ベンゼン | 0.01 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 〃 | 〃 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 20 |
| 21 | 塩素酸 | 0.6 mg/L以下 | 不可 |  |  | ○ | 不可 | 不可 |  |  |  | ● |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 21 |
| 22 | クロロ酢酸 | 0.02 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 〃 |  |  |  | ● |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 22 |
| 23 | クロロホルム | 0.06 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 〃 |  |  |  | ● |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 23 |
| 24 | ジクロロ酢酸 | 0.03 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 〃 |  |  |  | ● |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 24 |
| 25 | ジブロモクロロメタン | 0.1 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 〃 |  |  |  | ● |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 25 |
| 26 | 臭素酸 | 0.01 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 注３の通り（※１） |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 26 |
| 27 | 総トリハロメタン(※２) | 0.1 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 不可 |  |  |  | ● |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 27 |
| 28 | トリクロロ酢酸 | 0.03 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 〃 |  |  |  | ● |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 28 |
| 29 | ブロモジクロロメタン | 0.03 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 〃 |  |  |  | ● |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 29 |
| 30 | ブロモホルム | 0.09 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 〃 |  |  |  | ● |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 30 |
| 31 | ホルムアルデヒド | 0.08 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 〃 |  |  |  | ● |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 31 |
| 32 | 亜鉛及びその化合物 | 1.0 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 注２のとおり | 注４のとおり |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 32 |
| 33 | ｱﾙﾐﾆｳﾑ及びその化合物 | 0.2 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 〃 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 33 |
| 34 | 鉄及びその化合物 | 0.3 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 〃 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 34 |
| 35 | 銅及びその化合物 | 1.0 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 〃 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 35 |
| 36 | ﾅﾄﾘｳﾑ及びその化合物 | 200 mg/L以下 | 一定の場合可注1) |  |  | ○ | 〃 | 注３のとおり | 省略可 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 36 |
| 37 | ﾏﾝｶﾞﾝ及びその化合物 | 0.05 mg/L以下 | 不可 |  |  | ○ | 〃 | 〃 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 37 |
| 38 | 塩化物イオン | 200 mg/L以下 | 〃 |  | ○ |  | 注７のとおり | 不可 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 38 |
| 39 | ｶﾙｼｳﾑ、ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ等(硬度) | 300 mg/L以下 | 一定の場合可注1) |  |  | ○ | 注２のとおり | 注３のとおり | 省略可 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 39 |
| 40 | 蒸発残留物 | 500 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 〃 | 〃 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 40 |
| 41 | 陰イオン界面活性剤 | 0.2 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 〃 | 〃 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 41 |
| 42 | ジェオスミン | 0.00001 mg/L以下 | 不可 |  | ○注５) |  | 不可 | 注６のとおり |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 42 |
| 43 | 2-メチルイソボルネオール | 0.00001 mg/L以下 | 〃 |  | ○注５） |  | 〃 | 〃 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 43 |
| 44 | 非イオン界面活性剤 | 0.02 mg/L以下 | 一定の場合可注1) |  |  | ○ | 注２のとおり | 注３のとおり | 省略可 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 44 |
| 45 | フェノール類 | 0.005 mg/L以下 | 〃 |  |  | ○ | 〃 | 〃 | 〃 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 45 |
| 46 | 有機物(全有機炭素(TOC)の量) | 3 mg/L以下 | 不可 |  | ○ |  | 注７のとおり | 不可 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 46 |
| 47 | ｐＨ値 | 5.8以上8.6以下 | 〃 |  | ○ |  | 〃 | 〃 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 47 |
| 48 | 味 | 異常でないこと | 〃 |  | ○ |  | 〃 | 〃 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 48 |
| 49 | 臭気 | 異常でないこと | 〃 |  | ○ |  | 〃 | 〃 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 49 |
| 50 | 色度 | 5度以下 | 〃 |  | ○ |  | 〃 | 〃 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 50 |
| 51 | 濁度 | 2度以下 | 〃 |  | ○ |  | 〃 | 〃 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 51 |

※１）浄水処理にオゾン処理、消毒に次亜塩素酸を用いる場合は、省略不可　　※２）クロロホルム、ジブロモクロロメタン、ブロモジクロロメタン及びブロモホルムのそれぞれの濃度の総和

［3/3］

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 「専用水道における水質検査計画策定の参考様式」記入要領 | 注釈・参考 | | |
| [1/3]枚目  １　水質管理において留意すべき事項のうち水質検査計画に係るもの  ○　各項とも該当するものに○印をつけ、その概要等をｱﾝﾀﾞｰﾗｲﾝ部に書き込むこと。  ○　(2)は、縮尺５万分の１程度の地図（Ａ３用紙大程度）に記入のこと。  ○　(3)の基準値に近接した値とは、複数回の水質検査結果の変動等から判断すること。  ○　(4)の施設基準上の問題点には、保健所から改善指導を受けている内容等を記入のこと。  ２　定期の検査(施行規則第15条第１項)を行う項目、採水場所、検査の回数及びその理由  ○　[2/3]枚目の一覧表(※ａ)において策定した検査回数毎の採水日の目安を記入のこと。  　　また、ア～オは必ず記入すること。アの給水栓の欄には、採水する給水栓の位置・名称等、給水栓を特定できる情報を記入すること。  　カには独自に水質基準外の項目を検査する場合に記入すること。  ○　(2)の採水場所は、専用水道が概して小規模な施設であるため、浄水施設から一番遠方にある給水栓１ヶ所を選定することで差し支えない。  ○　検査回数の減は、本葉右欄の｢注釈･参考｣及び[2/3]枚目※ｃの記録等から判断のこと。  ３　検査を省略する項目及びその理由  ○　検査項目の省略は、本葉右欄の｢注釈･参考｣及び[2/3]枚目※ｂの記録等から判断のこと。  ○　｢他の水道事業からの水道水のみを水源とする専用水道｣については注１）の考え方に示したとおり、[2/3]枚目中央の欄に省略できる項目について「省略可」と示した。他の項目については、自己水源の専用水道と同様に回数の減、省略の可否等について検討すること。  　○　省略等を行った場合は[1/3]枚目の右欄に｢項目･理由｣等を整理して記入し、項目を追加又は検査頻度を増加させる場合も併せて記入しておくこと。  ４　臨時の検査に関する事項  ○　水源周辺の環境等から問題となるおそれのある物質については、予め対応を整理しておくこと。  ○　検査委託先との打ち合わせにより、異常時の検体の採水・運搬方法（検体採取容器、水質固定用薬品等）について取り決めておくこと。  ５　第20条登録検査機関への検査委託  ○　委託先、緊急時の連絡方法〔担当者ごとに、第３順位まで〕を整理しておくこと。  ６　その他  ○　(1)については、記載してあるとおり対応すること。  ○　(2)については、緊急時の利用者への情報提供方法について具体的に決めておくこと。  　また、給水停止時には近隣水道事業体からの給水応援等が必要となる場合があるので、速やかに県に報告すること。  ○　(4)については、国実施の「外部精度管理調査」に、各法第20条登録検査機関が参加  　した結果の閲覧等が考えられる。  [2/3]枚目  １　※ａの欄  ○　表中の●については省略不可で必ず実施しなければならない項目である。他の項目につ  いても※ｂ欄及び※ｃ欄の記載事項から合理的に判断して、必ずいずれかの欄に●印を記入して検査計画を明確にすること。  ○　２の(1)のカに記入した項目や、特別な事情により省令に定める基本回数を増加させる項目については、「毎日」の欄の空欄に検査周期を記入すること。  ○　３年周期の検査頻度の場合は、空欄に「H18」等、検査予定年度を記入すること。  ２　※ｂの欄  ○　左から３つの欄は、各見出しのとおり問題或いは汚染がない場合は○印を記入すること。  最高値の欄には過去の検査履歴から最高値を記入し、検査日を併記すること。  ％　＝　{(最高値)／(基準値)×100}　　　により計算したものとする。  なお、最高値については、検査年月日が項目毎に異なる場合があること。  ３　※ｃの欄  ○　最高値及び％の計算は、２と同様に行うこと。ただし、最高値は過去３年間のものとする。  ○　右の３つの欄には、直近の３回の検査成績(全項目等の検査を行ったもの)を記入すること。  ○　検査成績書に「△△未満」との表記がある場合は，「N.D.」と記載してもよい。  　　（「N.D.」とは，不検出又は検出限界未満の意味です。） | 新水質基準項目等の検査における、給水栓以外での採取の可否、  検査の回数、検査の省略の可否**(注釈)(水道法施行規則第15条)** | | 広島県内の専用水道における考え方  〔左記（注釈）への補足〕**(参考)** |
| 給水栓以外での水の採取：注１）  　一定の場合とは、送水施設及び配水施設内で濃度が上昇しないことが明らかであると認められる場合であり、この場合には、浄水施設の出口、送水施設又は配水施設のいずれかにおいて採取をすることができる。  (第２項第２号) | | 水道事業の用に供する水道から供給を受ける水のみを水源とする専用水道においては、その供給を受ける水が水質基準に適合していることに鑑み、注１を、供給を受けた後に送水施設及び配水施設内で濃度が上昇しないことが明らかであると認められる場合に省略可能な項目の目安として読み替え、２枚目中程の欄に示した。 |
| 検査回数の減：注２）  　水源に水又は汚染物質を排出する施設の設置の状況等から、原水の水質が大きく変わるおそれが少ないと認められる場合（過去３年間に水源の種別、取水地点又は浄水方法を変更した場合を除く。）であって、過去３年間における当該事項についての検査結果が、基準値の５分の１以下であるときは、概ね１年に１回以上と、過去３年間における当該事項についての検査結果が、基準値の10分の１以下であるときは、概ね３年に１回以上とすることができる。(第１項第３号ハ) | | 改正水質基準施行の際(H16.4.1)に、現に設置されている専用水道にあっては、新たに水質基準に導入された項目(新水質基準の表の12、14、21、23、25、27、30、32、41～43の項)に係る検査実績がないことから、新たに行った水質検査の結果を最大値として検査回数の減を判断して差し支えない。  　また、その他の項目であって検査回数の減が可能な項目については、新規専用水道又は新設のため３年を経過していない専用水道にあっては、当該期間内において検査した結果のうち最高検出値をもって、「検査回数の減」について判断を行っても差し支えない。ただし、いずれの場合も、検査回数の減は「基準値の５分の１以下であるとき概ね１年に１回以上」までとする。  　なお、検査履歴が通算３年を超えた後は、注２のみにより判断すること。 |
| 省略の可否：注３）  　当該事項についての過去の検査結果が基準値の２分の１を超えたことがなく、かつ、原水並びに水源及びその周辺の状況を勘案し、検査を行う必要がないことが明らかであると認められる場合は、規則第15条第１項第１号（定期の検査）及び第３号（検査回数の特例）の規定にかかわらず、略することができる。(第１項第４号) |  |
| なお、省略する場合にあっても、３年に１回程度は検査して、水道水質の状況に変化がないことを確認すること。〔「水質基準に関する省令の制定及び水道法施行規則の一部改正等並びに水道水質管理における留意事項について」（H15.10.10厚生労働省水道課長通知、以下「注３課長通知」という。）〕 | | 省略の判断に要する「過去の検査結果」の蓄積期間については規定等が無い。このため、検査履歴のない項目については新たに検査した値及び水源周辺の状況等により判断を行うことも可能であるが、１年間に複数回行った検査結果を相当程度蓄積して判断することが望ましい。 |
| 省略の可否：注４）  　当該事項についての過去の検査結果が基準値の２分の１を超えたことがなく、かつ、原水並びに水源及びその周辺の状況並びに薬品等及び資機材等の使用状況を勘案し、検査を行う必要がないことが明らかであると認められる場合は、規則第15条第1項第1号（定期の検査）及び第３号（検査回数の特例）の規定にかかわらず、省略することができる。(第１項第４号)  　なお、省略する場合にあっても、３年に１回程度は検査して、水道水質の状況に変化がないことを確認すること。〔注３課長通知〕 | | 同上 |
| ジェオスミン等の検査回数の減：注５）  　概ね１月に１回以上（左記の事項を産出する藻類の発生が少なく、検査を行う必要がないことが明らかであると認められる期間を除く。）(第１項第３号ロ) | | 概ね初夏から秋にかけては藻類の発生も多いと考えられるが、その他の時期の頻度にあっては、異臭味の発生や利用者からの苦情の有無の履歴を踏まえて判断すること。 |
| ジェオスミン等の省略の可否：注６）  　当該事項についての過去の検査結果が基準値の２分の１を超えたことがなく、かつ、原水並びに水源及びその周辺の状況（湖沼等の停滞水源を水源とする場合は、当該基準項目を産出する藻類の発生状況を含む。）を勘案し、検査を行う必要がないことが明らかであると認められる場合は、規則第15条第1項第1号（定期の検査）及び第３号（検査回数の特例）の規定にかかわらず、省略することができる。(第１項第４号) | | 湖沼等の停滞水を水源としていないか、また、当該水源の影響を受けるおそれの有無等が判断基準になると考えられるが、その他の水源を使用している場合であっても、過去に異臭味の発生や利用者からの苦情の有無を勘案の上、判断すること。 |
| 検査回数の減：注７）  　自動連続測定・記録をしている場合、概ね３月に１回以上とすることが可(第１項第３号イ)  　なお、「連続的に測定及び記録がなされている場合」とは、自動測定器による測定・記録のほか、日常の点検による監視、測定及び記録も含むものであること。〔注３課長通知〕 | |  |
| 項目14～20の省略の可否：注８）  　当該事項についての過去の検査結果が基準値の２分の１を超えたことがなく、かつ、原水並びに水源及びその周辺の状況（地下水を水源とする場合には、近傍の地域における地下水の状況を含む。）を勘案し、検査を行う必要がないことが明らかであると認められる場合は、規則第15条第1項第1号（定期の検査）及び第３号（検査回数の特例）の規定にかかわらず、省略することができる。(第１項第４号)  　なお、省略する場合にあっても、３年に１回程度は検査して、水道水質の状況に変化がないことを確認すること。〔注３課長通知〕 | | 注３に係る考え方に同じ。  　ただし、「地下水又は湧水の汚染の可能性がない場合」とは、これまでに水源の汚染事例がなく、かつ、水源から概ね半径７km（山間地域は１km）以内に使用・排出実態及び地質の状態から汚染の発生要因となるもの(以下「発生源」という。)がないことが明らかになった場合をいう。  　なお、この範囲において発生源の有無が確認できない場合には、汚染の可能性がある場合とみなすものとする。 |